産学官連携の推進に向けた大学の実務者等のコミュニティ形成の在り方に関する調査・分析報告書

文部科学省 科学技術・学術政策局
産業連携・地域振興課
（調査委託先：有限責任監査法人トーマツ）

文部科学省

本報告書は、文部科学省の令和５年度産学官連携支援事業委託事業による委託業務として、有限責任監査法人トーマツが実施した令和5年度「 産学官連携の推進に向けた大学の実務者等のコミュニティ形成の在り方に関する調査・分析」の成果を取りまとめたものです。

目次

No	項目	ページ番号
1	はじめに（本事業の概要・実施方法）	5
2	コミュニティの必要性の整理	9
3	類似コミュニティに見る目的・機能整理	１４
4	仮説策定	２２
5	仮説検証	４１
6	自走化にむけた準備	５８
7	本事業を通じ今後検討すべき論点	６７

目次

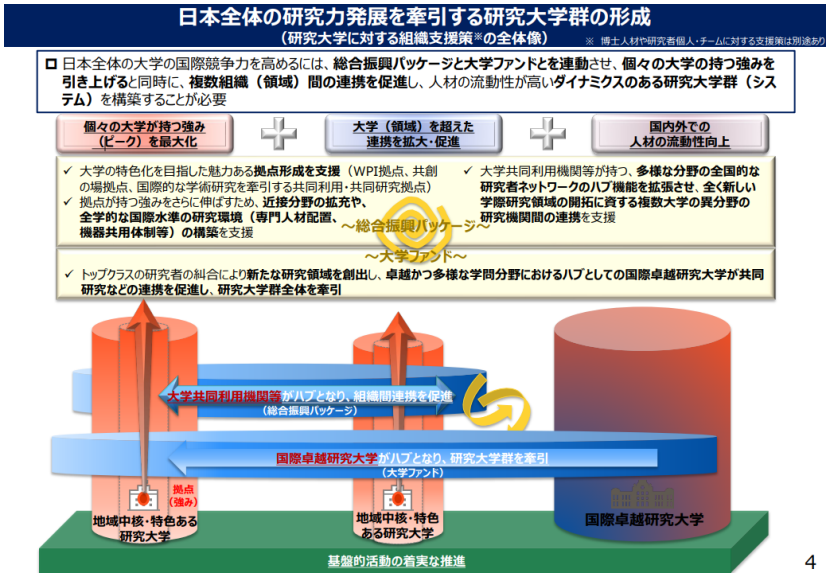
No	項目	ページ番号
1	はじめに（本事業の概要・実施方法）	5
2	コミュニティの必要性の整理	9
3	類似コミュニティに見る目的・機能整理	１４
4	仮説策定	２２
5	仮説検証	４１
6	自走化にむけた準備	５８
7	本事業を通じ今後検討すべき論点	６７

本事業は大学の研究力強化に向けて、産学官連携実務者の業務環境・能力向上を図ることを目的としています

本事業の背景・目的

背景・目的

- これまで内閣府では、日本全体の研究力を向上させるためには、大学ファンドによる限られたトップレベルの研究大学への支援と同時に、核となる大学や特定分野に強みを持つ大学等、実力と意欲を持つ多様な大学の機能強化をしていくことが重要との理解のもと、それを推進すべく、総合振興パッケージが取りまとめられた
- それを受け、研究者に対する支援のみならず、環境整備の一環として研究者を支える支援人材についても、施策が展開されている
- 本事業は、上記背景を踏まえ、研究者の支援者である産学官連携実務者の個々のスキルアップや大学経営に関する意識醸成を図るべく、実務者を中心としたオンラインコミュニティを形成し、活性化することが求められている



4

実施方法

本事業では、産学官連携コミュニティに関する現状認識並びにそれを踏まえた仮説策定と検証を行い、その結果を踏まえ、今後検討すべき論点を整理するステップで進めた

事業のアプローチと検討の観点

STEP1 現状認識　・仮説策定

現状認識

■ **コミュニティの必要性の整理**
産学官連携現場の情報共有・課題共有の現状の課題を整理する
（デスク調査及び大学関係者へのヒアリング）

■ **類似コミュニティに見る目的・機能整理**
国内外類似コミュニティから示唆を得る
（デスク調査及び大学関係者へのヒアリング）

仮説策定

■ **本事業で行う事業の仮説策定**
現場課題や既存コミュニティの差別化を踏まえ、本事業で扱うべきコミュニティの方向性を検討

コミュニティのあり方・機能　／　活動方針・テーマ

STEP2 仮説検証

論点	ワークショップ1回目	ワークショップ2回目	自走化にむけた準備
あり方・機能の検討	コミュニティの意義の腹落ち ■ メンバーが抱える課題共有をもとに、多職種連携の意義とコミュニティを新たに創る必要性を検討	コミュニティの在り方に関する合意形成 ■ メンバーの腹落ち感を前提に、既存コミュニティとの差別化を切り口に検討	新メンバーを通じたあり方のブラッシュアップ ■ メンバーからの意見と、新メンバーからの意見を通じたあり方のブラッシュアップ（自分がわくわくするか、周りを誘いたいか、上司が参加させたいと思うかの観点でコメント）
活動方針・テーマの検討	テーマの方向性の検討 ■ 制度、スキル、キャリア、研究シーズの観点で仮説テーマを設定し、メンバーの課題をもとに議論	テーマの方向性の深掘 ■ WS①で合意されたテーマ案（URAの意義・多職種連携すべき業務）について各メンバーの意見を募った	管理職の意見を踏まえたブラッシュアップ ■ 管理職の理解に向け、管理職へのヒアリングを行った

STEP3 本事業を通じ今後検討すべき論点

目次

No	項目	ページ番号
1	はじめに（本事業の概要・実施方法）	5
2	コミュニティの必要性の整理	9
3	類似コミュニティに見る目的・機能整理	１４
4	仮説策定	２２
5	仮説検証	４１
6	自走化にむけた準備	５８
7	本事業を通じ今後検討すべき論点	６７
8	Appendix	5

本章では、コミュニティの必要性について、産学官連携現場の情報共有・課題共有の現状の課題を取りまとめております

事業のアプローチと検討の観点

STEP1 現状認識　・仮説策定

現状認識

■ **コミュニティの必要性の整理**
産学官連携現場の情報共有・課題共有の現状の課題を整理する
（デスク調査及び大学関係者へのヒアリング）

■ **類似コミュニティに見る目的・機能整理**
国内外類似コミュニティから示唆を得る
（デスク調査及び大学関係者へのヒアリング）

仮説策定

■ **本事業で行う事業の仮説策定**
現場課題や既存コミュニティの差別化を踏まえ、本事業で扱うべきコミュニティの方向性を検討

コミュニティのあり方・機能　／　活動方針・テーマ

STEP2 仮説検証

論点	ワークショップ1回目	ワークショップ2回目	自走化にむけた準備
あり方・機能の検討	コミュニティの意義の腹落ち ■ メンバーが抱える課題共有をもとに、多職種連携の意義とコミュニティを新たに創る必要性を検討	コミュニティの在り方に関する合意形成 ■ メンバーの腹落ち感を前提に、既存コミュニティとの差別化を切り口に検討	新メンバーを通じたあり方のブラッシュアップ ■ メンバーからの意見と、新メンバーからの意見を通じたあり方のブラッシュアップ（自分がわくわくするか、周りを誘いたいか、上司が参加させたいと思うかの観点でコメント）
活動方針・テーマの検討	テーマの方向性の検討 ■ 制度、スキル、キャリア、研究シーズの観点で仮説テーマを設定し、メンバーの課題をもとに議論	テーマの方向性の深掘 ■ WS①で合意されたテーマ案（URAの意義・多職種連携すべき業務）について各メンバーの意見を募った	管理職の意見を踏まえたブラッシュアップ ■ 管理職の理解に向け、管理職へのヒアリングを行った

STEP3

本事業を通じ今後検討すべき論点

産学官連携実務者は実務面で多くの課題を抱えており、その多くは自大学だけで解決することが困難な課題が上がっています

産学官連携実務に関する主な課題の整理※

個人の課題	スキル面における課題	俯瞰力	■ 学術研究をとりまく状況をいかに認識し、どのように自らの活動を方向づけるかの観点から ①**教育研究、学術界、産業界、政策、社会等の状況や動向を捉え自らの活動を正しく方向づける力** ②**様々な階層（世界、国、地域、大学、部局等）で自らを位置づける力** が不足
		シンクタンク能力・コンサルテーション能力	■ シーズとニーズのマッチングだけの対応は、相手側から求められていないこともあり、**ビジネスモデルやシナリオ提案**が必要だが、追い付いていない ■ **外部への魅力的な研究開発プロジェクトの企画・提案が難しい**（ニーズを把握する体制になっていない、相手への理解不足等）
		マネジメント能力	■ **優先順位付け、現場共有、学内施策の「企画立案」や「推進」**が追い付いていない
		専門性	■ 研究推進に係る広範**な専門知識と知識習得力**（科学技術・学術政策、研究倫理、研究費、国際／産学／社会連携、大学組織 等）、**倫理観、規範意識 、リスクマネジメント、知財管理、情報収集、分析能力 、企画力、提案力、交渉力、調整力 、文章構成力、表現力、学術的理解力**等、多様な専門性が求められている
大学内の課題	業務範囲の広がり・手続き・意思決定への対応不足		■ 企業との共同研究契約等に係る**手続き・意思決定**に時間がかかる ■ 企業に対して共同研究にかかわる**必要経費**を提示することが難しい ■ **URAの関与領域**（研究者支援、国際化、広報、大学経営、IR、産学官連携、教育等）に伴う対応 ■ **適材適所の配置**ができていない ■ **基本スキルを持った人材の確保**が難しい ■ 定型業務の業務量が多く、**提案型の業務が不十分**
	内部ネットワーク・連携不足		■ **事務組織との連携・役割分担が不十分** ■ **属人的な業務**となっており、普遍的対応を可能にする必要がある ■ 現在の 実務者は個別プロジェクト下に配置されていることが多く、**横断的な活動がしにくい** ■ 組織内のベストメンバー（研究者）を集めた**研究体制の構築が難しい**
大学外の課題	外部ネットワークの不足		■ **産業界、地域、政府等、産学官連携関係者との連携**がうまくいかない 特に企業との交渉・調整体制が確立・機能していない（企業とのコミュニケーション不足）

自大学だけで解決することが難しそうな課題が多く列挙されている

※各種公開情報をもとに整理（次頁）

検討の参考にした公開情報

文献名	出所URL
URAシンポジウム　大学等の研究力・経営力の向上に向けて～大学等が求めるURAシステムの確立・強化にどう取り組むか～（平成29年3月25日開催）	https://www.mext.go.jp/a_menu/jinzai/ura/detail/1385775.htm https://www.mext.go.jp/component/a_menu/science/micro_detail/__icsFiles/afieldfile/2017/06/05/1385773_005.pdf https://www.mext.go.jp/component/a_menu/science/micro_detail/__icsFiles/afieldfile/2017/06/05/1385773_004.pdf
リサーチ・アドミニストレーターの質保証に向けた調査分析	https://www.mext.go.jp/a_menu/jinzai/ura/detail/__icsFiles/afieldfile/2018/05/01/1403896_001.pdf
URAの活動に資するDXプラットフォームの構築 分野や機関の枠を超えた共同研究推進を目指して これまでの経緯とDXPF-TTの検討状況、RUCへのお願い	https://www.ruconsortium.jp/uploaded/life/511_1459_misc.pdf
日本のアカデミアにおける研究推進・活用人材 -競合から協働へ向かう産学官連携コーディネータとURA	https://www.google.co.jp/url?sa=t&rct=j&q=&esrc=s&source=web&cd=&cad=rja&uact=8&ved=2ahUKEwiNgoqr0YaBAxWarlYBHVSQDBcQFnoECCkQAQ&url=https%3A%2F%2Fresearchmap.jp%2Fpop0122%2Fpublished_papers%2F14963393%2Fattachment_file.pdf&usg=AOvVaw133TOoZtAWW9Nyh6sTOKCg&opi=89978449
「リサーチ・アドミニストレーターを育成・確保するシステムの整備」（リサーチ・アドミニストレーションシステムの整備）	https://www.mext.go.jp/a_menu/jinzai/ura/detail/1315871.htm
URAの仕事と求められる能力の多様性	https://www.nistep.go.jp/wp/wp-content/uploads/20170629_araki.pdf
URA 機能・産学連携機能のより良い接続のあり方と組織のかたちを再考する	https://www.ura.osaka-u.ac.jp/policyseminar/images/6th_rmanj_session_a2_kouenroku.pdf
リサーチ・アドミニストレーション・システムに関する一考察 ― 教員の実質的な研究時間の確保に資する研究支援体制の構築 ―	https://www.google.co.jp/url?sa=t&rct=j&q=&esrc=s&source=web&cd=&cad=rja&uact=8&ved=2ahUKEwji-9qFzoaBAxVVm1YBHZR3CjQ4ChAWegQIEBAB&url=https%3A%2F%2Fobirin.repo.nii.ac.jp%2Frecord%2F2102%2Ffiles%2FAA12520637_9_95-103.pdf&usg=AOvVaw2CgeobL3ChdPH8XjvQtzg1&opi=89978449
産学官連携コーディネーター、 リサーチ・アドミニストレーターのこれまでの取組と現状について	https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/gijyutu/gijyutu16/005/shiryo/__icsFiles/afieldfile/2013/08/08/1338341_2_1.pdf

大学間連携やコミュニティのニーズを探るため、産学連携有識者と複数の大学職員に対し、座談会形式でヒアリングを行いました

大学関係者へのヒアリング①（座談会）

調査の狙い

■ 大学間連携、コミュニティのニーズはあるか？

問

■ 自大学の業務で課題に感じていることはあるか
（自大学だけでは解決が難しいなど）
■ あるとすれば、具体的にはどのような内容か

調査形式

座談会形式による意見交換・ヒアリング

参加属性

産学官連携有識者
- 大学教授
- 非常勤として他大学の客員研究員・特任教授等
- その他政府系委員会委員、学会の役員

大学職員A
- 国立大学
- 30代URA

大学職員B
- 国立大学
- 40代URA

大学職員C
- 私立大学
- 30代事務職員

大学職員D
- 国立大学
- 40代事務職員

目次

No	項目	ページ番号
1	はじめに（本事業の概要・実施方法）	5
2	コミュニティの必要性の整理	9
3	類似コミュニティに見る目的・機能整理	１４
4	仮説策定	２２
5	仮説検証	４１
6	自走化にむけた準備	５８
7	本事業を通じ今後検討すべき論点	６７

本章では、類似事例調査の結果および示唆を取りまとめております

調査のアプローチと検討の観点

STEP1 現状認識　・仮説策定

現状認識

■ **コミュニティの必要性の整理**
産学官連携現場の情報共有・課題共有の現状の課題を整理する
（デスク調査及び大学関係者へのヒアリング）

■ **類似コミュニティに見る目的・機能整理**
国内外類似コミュニティから示唆を得る
（デスク調査及び大学関係者へのヒアリング）

仮説策定

■ **本事業で行う事業の仮説策定**
現場課題や既存コミュニティの差別化を踏まえ、本事業で扱うべきコミュニティの方向性を検討

コミュニティのあり方・機能　活動方針・テーマ

STEP2 仮説検証

論点	ワークショップ1回目	ワークショップ2回目	自走化にむけた準備
あり方・機能の検討	コミュニティの意義の腹落ち ■ メンバーが抱える課題共有をもとに、多職種連携の意義とコミュニティを新たに創る必要性を検討	コミュニティの在り方に関する合意形成 ■ メンバーの腹落ち感を前提に、既存コミュニティとの差別化を切り口に検討	新メンバーを通じたあり方のブラッシュアップ ■ メンバーからの意見と、新メンバーからの意見を通じたあり方のブラッシュアップ（自分がわくわくするか、周りを誘いたいか、上司が参加させたいと思うかの観点でコメント）
活動方針・テーマの検討	テーマの方向性の検討 ■ 制度、スキル、キャリア、研究シーズの観点で仮説テーマを設定し、メンバーの課題をもとに議論	テーマの方向性の深掘 ■ WS①で合意されたテーマ案（URAの意義・多職種連携すべき業務）について各メンバーの意見を募った	管理職の意見を踏まえたブラッシュアップ ■ 管理職の理解に向け、管理職へのヒアリングを行った

STEP3

本事業を通じ今後検討すべき論点

今後コミュニティの仮説を検討するにあたり、代表的類似コミュニティの事例から、成功ポイントや差別化ポイントを検討しました

類似事例調査の目的

	主な調査項目	内容
コミュニティのあり方・機能	コミュニティの対象・目的	コミュニティの対象や目的は定まっているのか
	コミュニティの機能	活発なコミュニティにはどのような機能が設定されているか
活動方針・テーマ	コミュニティの段階的醸成方法	コミュニティが醸成されるための工夫ポイントには機能以外にどのようなものがあるか
	具体的な検討テーマ	どのようなテーマを設定しているのか？ （テーマの粒度・具体性はどの程度か）

明確な目的のもと、メンバー間の交流機能、情報発信機能の他、具体的なニーズを踏まえたテーマが設定され、それに応じた研修や情報発信等の各取り組みが展開されています

国内類似コミュニティの調査結果※

	RA協議会	産学連携プラットフォーム
人数	会員（組織）：４０機関 組織内個人会員数：456人※2023年6月30日現在 組織外個人会員数：200人※2023年6月30日現在	会員（組織）：２３
参加者	URA関係従事者/産学官連携本部	企業/加盟大学及び機関・産連本部
活動目的	■ 支援人材の育成・交流 RAに携わる人材の育成・能力向上、課題の共有・解決及び組織・体制・制度の検討等についての情報交換 ■ URAスキル協議	■ 産学連携の促進 大学や研究機構内でのシーズ（医療・食品・環境・IoT・自動車・ものづくりの計６分野）を取集、掲載し企業が求めるニーズに対する提案及びマッチング
活動手段	イベント運営	Webサイト運営/マッチング窓口業務/イベント出展
活動内容	■ 大学URA間の連携・交流会・情報交換 ・年次大会の開催・ネットワーキングセミナー ■ 人材育成のための研究会・講習会・能力認定 ・URAの新任研修（対面・オンライン）有料 ■ 国内外の諸団体との交流・連携 ■ URA業務の啓発 ・大学執行部対象セミナー・研究支援人材実態調査、基礎データ蓄積	■ コンサルティングサービス ・大学や研究機関からの研究シーズ収集、企業から課題や問題の受付 ・企業の課題に合わせた大学及び研究シーズのマッチング ■ 加盟機関技術情報提供 ・研究シーズの公開 ■ イベントへの出展 ・第１０回つくば産産学連携促進市等　・活動の広報
活性化のポイント（仮説）	URA組織や産学官連携組織といった組織間連携や組織向けの情報提供がメインであり、協議会員は、大学院教授や産学連携教授などで構成 【活性化のポイント】 ・組織会員に有用な多様な情報が共有・発信がされている ・新任向けの研修といった各会員が求めるニーズに対し、本組織がこれを提供している	企業と大学・研究機関とのマッチング支援がメインであり、企業からの問い合わせやニーズを一括で受付けている。 【活性化のポイント】 ・研究（シーズ）と企業等の相手が求める事（ニーズ）のマッチという明確な目的が設定されている ・企業側が各大学にアクセスするといった手間がない ・研究シーズの新しいPRの場が提供されている ・画像や文章だけでなく動画も活用し新しいPRの試みがされている

※各コミュニティのwebサイトをもとに整理

国内既存コミュニティとの差別化の可能性として、若手の多様な職種の方を対象に、実務上の課題解決を目的とした参加型コミュニティが考えられます

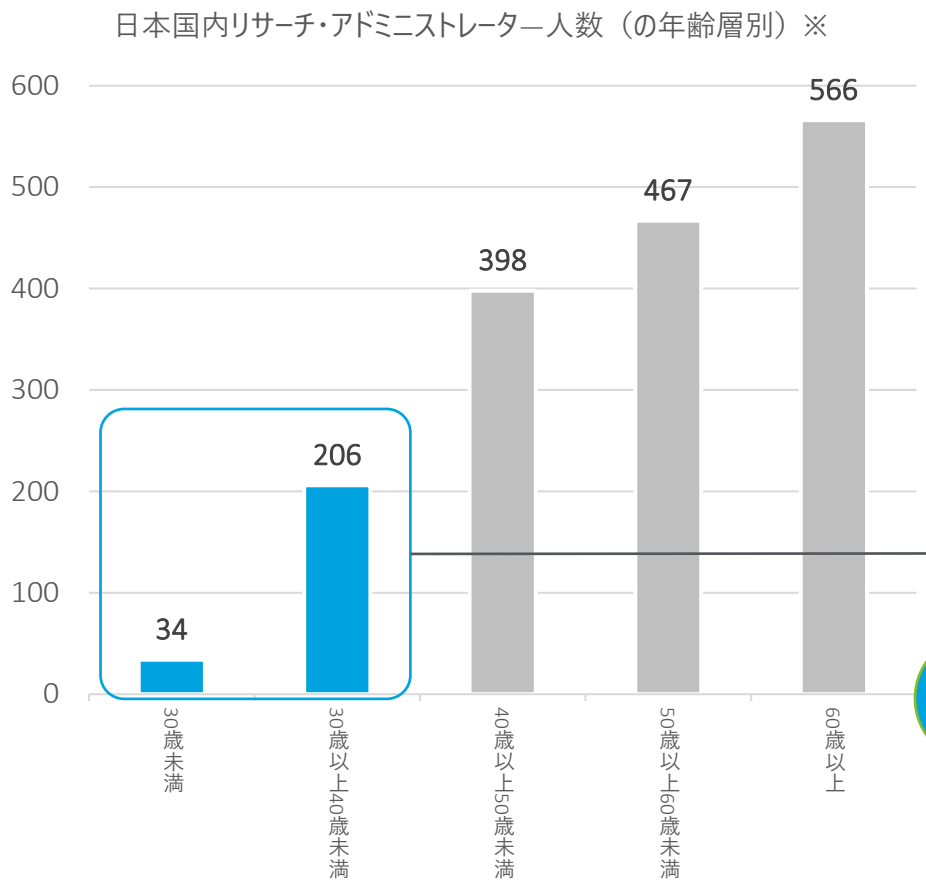
国内類似コミュニティとの差別化のポイント

	RA協議会	産学連携プラットフォーム		当コミュニティ（差別化のポイント・仮説）
参加対象	主にはURA関係者 年齢層の制限はないが、 ベテラン層が多い印象	企業および産学連携担当者	⟷	**多様な職種に属する 産学連携実務者**
活動目的	情報共有・スキル開発	研究シーズと 産業界のニーズとのマッチング	⟷	産学連携実務者が抱える **実務上の課題解決**
機能	■ 年次大会 ■ 情報発信 ■ 研修・ネットワーキング ■ 調査・基礎データ蓄積	■ ネットワーキング（相手先紹介） ■ 情報発信 ■ イベント出展	⟷	参加者の**自発的参加** **設定課題に対する深い議論**

公開情報に加え大学関係者へのヒアリングも踏まえ整理

【参考】40歳未満までをターゲットとした場合、URAは240名となります

参考：コミュニティの規模感



「若手」の年齢層	その他の年齢層
４０歳未満	４０歳以上
計　２４０人	計　１,４３１人

当コミュニティへのターゲットボリューム
（事務職員は含まれていないことに留意）

※出典：令和4年度　大学等における産学連携等実施状況について：文部科学省 (mext.go.jp) / 様式10（リサーチ・アドミニストレーター）

コミュニティ参加者の一方的な情報享受でなく、参加者自身が主体的に活動・発信しているケースがみられ、交流自体のやり取りが貴重なコンテンツになっていると思われます

海外事例調査結果※

	NCURA：National Council of University Research Administrators（米国）	ARMA：Association of Research Managers and Administrators（英国）	PraxisAuril（英国）
人数	組織会員：1,100以上機関 個人会員：8,600人以上	個人会員：約3,000人	個人会員：5,000人
参加者	米国内外の研究支援人材 大学や教育機関、研究機関	研究リーダー・マネージャー・支援人材	大学・企業
活動目的	■ 研究支援人材の専門知識やスキルの向上 ■ 研究支援人材のコミュニケーションの活性化	■ 専門的な能力の開発 ■ ネットワーク、知識、スキルの構築	大学と企業間の専門知識交換
活動手段	イベント・ウェビナー・情報の共有	イベント・カンファレンス	イベント・カンファレンス・コンサルテーション
活動内容	■ グローバルワークシップ－（年に１～３回） ・助成金申請書を成功に導く方法 ・資金提供機会の見つけ方 ■ NCURAフェローシッププログラム ■ NCURAグローバルウェビナー ■ 研究助成金の申請書サンプルやテンプレート等の共有	■ トレーニングと能力開発プログラム ・ワークショップ/ウェビナ/情報提供（月２・３回、有料） ■ ネットワーキング ・イベント、分科会 ■ 専門資格証明書の発行 ■ 年次総会	■ トレーニングコース ・リーダーシップ研修/新規ベンチャー創出/研究契約 ■ オンラインイベント ・コラボレーションの促進/メンバー間コミュニケーション ■ 会員イベント ・ワークショップ(テーマ「研究の商業化」等)
活性化のポイント（仮説）	米国だけでなく、米国外の組織と連携することで、世界中のコミュニケーションの活性化を行っている 【活性化ポイント】 ・セミナーや交流イベントが米国だけでなく世界中で実施されている ・会員特典として申請書のサンプルやテンプレート等が入手可能	支援人材だけでなく、研究リーダー等の研究者を含めて、全体として研究推進をしている。自ら情報発信が可能（ベストプラクティスの共有等） 【活性化ポイント】 ■ 会員になると月に２，３回の情報提供を無料で得られる ■ 支援人材だけでなく、研究者を目指す人にも必要な情報を提供	大学だけでなく企業も巻き込み、研究の事業化に向けて必要な専門知識を発信している。 【活性化ポイント】 ・有料ではあるが、トレーニングやコンサルテーションの支援が受けられる ・ワークショップのテーマが支援人材向けに限らず幅広く展開

※各コミュニティのwebサイトをもとに整理

国内外の類似事例調査を踏まえると、本事業におけるコミュニティで具備すべき機能・要素は大きくコミュニティの自走持続機能・課題解決・活性化と考えられます

国内外事例調査を踏まえた本コミュニティで具備すべき機能・要素（仮説）

特徴的な機能・要素	
■ RA協議会	■ 大学及び研究機関の研究支援・促進組織間における連携や情報提供 ■ URAの新任研修の提供
■ 産学連携プラットフォーム	■ 大学や研究機関のシーズと企業のニーズをマッチングする ■ 会員大学全体のシーズをまとめて公表し、企業からの相談窓口も担う
■ NCURA：National Council of University Research Administrators	■ 世界中に会員を有し、各大学で設計された教育プログラムやイベントを開催 ■ 世界各国の会員との連携やコミュニケーションが可能
■ ARMA：Association of Research Managers and Administrators	■ 情報収集だけでなく自ら情報発信が可能（ベストプラクティスの共有等） ■ 情報提供量が多く、テーマの幅が広い
■ PraxisAuril	■ 支援人材だけでなく企業や研究者等も参加 ■ 会員限定のイベントやネットワーキングが開催されている

調査を踏まえ、コミュニティで具備すべき機能・要素（仮説）	
コミュニティオーナーの存在	コミュニティの自走・持続可能
参加者の産学連携に対する自分事化	
コミュニティのテーマ／目的の明確化	
課題（論点）・議論の集積（UGC※）	コミュニティの課題解決機能
参加者内に自然発生コミュニティマネージャーがいる	コミュニティの活性化・求心力

※User-Generated Content：ユーザー側の発信によって成立するコンテンツ

目次

No	項目	ページ番号
1	はじめに（本事業の概要・実施方法）	5
2	コミュニティの必要性の整理	9
3	類似コミュニティに見る目的・機能整理	１４
4	仮説策定	２２
5	仮説検証	４１
6	自走化にむけた準備	５８
7	本事業を通じ今後検討すべき論点	６７

本章では、コミュニティの仮説について取りまとめております

調査のアプローチと検討の観点

STEP1 現状認識　・仮説策定

現状認識

■ **コミュニティの必要性の整理**
産学官連携現場の情報共有・課題共有の現状の課題を整理する
（デスク調査及び大学関係者へのヒアリング）

■ **類似コミュニティに見る目的・機能整理**
国内外類似コミュニティから示唆を得る
（デスク調査及び大学関係者へのヒアリング）

仮説策定

■ **本事業で行う事業の仮説策定**
現場課題や既存コミュニティの差別化を踏まえ、本事業で扱うべきコミュニティの方向性を検討

コミュニティのあり方・機能　／　活動方針・テーマ

STEP2 仮説検証

論点	ワークショップ1回目	ワークショップ2回目	自走化にむけた準備
あり方・機能の検討	コミュニティの意義の腹落ち ■ メンバーが抱える課題共有をもとに、多職種連携の意義とコミュニティを新たに創る必要性を検討	コミュニティの在り方に関する合意形成 ■ メンバーの腹落ち感を前提に、既存コミュニティとの差別化を切り口に検討	新メンバーを通じたあり方のブラッシュアップ ■ メンバーからの意見と、新メンバーからの意見を通じたあり方のブラッシュアップ（自分がわくわくするか、周りを誘いたいか、上司が参加させたいと思うかの観点でコメント）
活動方針・テーマの検討	テーマの方向性の検討 ■ 制度、スキル、キャリア、研究シーズの観点で仮説テーマを設定し、メンバーの課題をもとに議論	テーマの方向性の深掘 ■ WS①で合意されたテーマ案（URAの意義・多職種連携すべき業務）について各メンバーの意見を募った	管理職の意見を踏まえたブラッシュアップ ■ 管理職の理解に向け、管理職へのヒアリングを行った

STEP3

本事業を通じ今後検討すべき論点

仮説検討にあたっては、コミュニティの在り方・機能、活動方針・テーマに分けてそれぞれ検討を行いました

仮説策定にあたっての検討論点

コミュニティのあり方・機能	コミュニティの対象・目的	■ 今コミュニティの対象者および活動目的は何が適切か？
	コミュニティの機能	■ 本事業で具備すべきコミュニティの機能はどうあるべきか？
活動方針・テーマ	コミュニティの段階的醸成方法	■ 一足飛びにはコミュニティが完成しないことから、完成に向けてどのような進め方をとるべきか？
	具体的な検討テーマ	■ 本事業で扱うべき具体的なテーマはどのようなものが適切か？

仮説策定にあたっての検討論点

コミュニティのあり方・機能	コミュニティの対象・目的	■ 今コミュニティの対象者および活動目的は何が適切か？
	コミュニティの機能	■ 本事業で具備すべきコミュニティの機能はどうあるべきか？
活動方針・テーマ	コミュニティの段階的醸成方法	■ 一足飛びにはコミュニティが完成しないことから、完成に向けてどのような進め方をとるべきか？
	具体的な検討テーマ	■ 本事業で扱うべき具体的なテーマはどのようなものが適切か？

本事業の目的・類似コミュニティの状況、現状認識を踏まえ、コミュニティの対象と目的について仮説設定をしました

コミュニティの目的の検討

本事業の取り組みの背景・目的

- 大学の研究力強化の必要性
  我が国全体の研究力を向上させるため、実力と意欲を持つ多様な大学を機能強化
- 産学官連携実務者の業務環境・能力向上
  研究者への支援のみならず、環境整備の一環として支援側へのサポートも重要

事業の主な取組内容

- 産学官連携実務者オンラインコミュニティの構築・運営
  全国の大学の産学官連携実務者が適時かつ容易に交流ができるオンラインコミュニティの構築及び運営

コミュニティの対象・目的

- **類似コミュニティの状況、現状認識を通じた課題感の内容（キャリア・実務）および、本事業では、実務者の業務環境・能力向上等、"実務者"の業務に着目していることを踏まえコミュニティの対象を"若手"の実務者として仮説設定する**
- **目的は彼らの業務上の課題を解決することとした**

この目的を達成するための検討事項

機能	どのような機能が必要か
醸成方法	どのようにコミュニティを作り上げていくか
テーマ	何のテーマを取り扱うべきか

※それぞれ後段で検討

仮説策定にあたっての検討論点

コミュニティのあり方・機能	コミュニティの対象・目的	■ 今コミュニティの対象者および活動目的は何が適切か？
	コミュニティの機能	■ 本事業で具備すべきコミュニティの機能はどうあるべきか？
活動方針・テーマ	コミュニティの段階的醸成方法	■ 一足飛びにはコミュニティが完成しないことから、完成に向けてどのような進め方をとるべきか？
	具体的な検討テーマ	■ 本事業で扱うべき具体的なテーマはどのようなものが適切か？

類似事例の調査から導いた本コミュニティにおける機能・要件を本事業の観点で整理しました

コミュニティの機能・要件

	本コミュニティに必要な機能・要件（類似調査等を踏まえた仮説）	具体的内容
コミュニティの自走・持続可能	コミュニティオーナーの存在	本事業を積極的に推進したい参加者
	参加者の産学官連携に対する自分事化	参加者として傍聴するのでなく、自らが主体的に参加をする（自分が抱える課題テーマについて、自発的・積極的に議論する）
コミュニティの課題解決機能	コミュニティのテーマ／目的の明確化	・産学官連携実務者の日常業務の課題に対し、コミュニティメンバーとの議論を通じ解決する ・テーマは１つに限らず複数存在してもいい
	課題（論点）・議論の集積（UGC）	課題に対しコミュニティメンバーが議論を行った結果の結論のみならず、議論自体も優良なコンテンツとして価値があるものになる
コミュニティの活性化・求心力	参加者内に自然発生コミュニティマネージャーがいる	議論テーマの内容や、コミュニティメンバーのニーズに基づき、面倒見のよいコミュニティメンバーが、情報の共有やネットワーキングを支援し、コミュニティを盛り上げる

類似事例の調査から導いた本コミュニティにおける機能・要件を本事業の観点で整理を踏まえたコミュニティの絵姿を策定しました

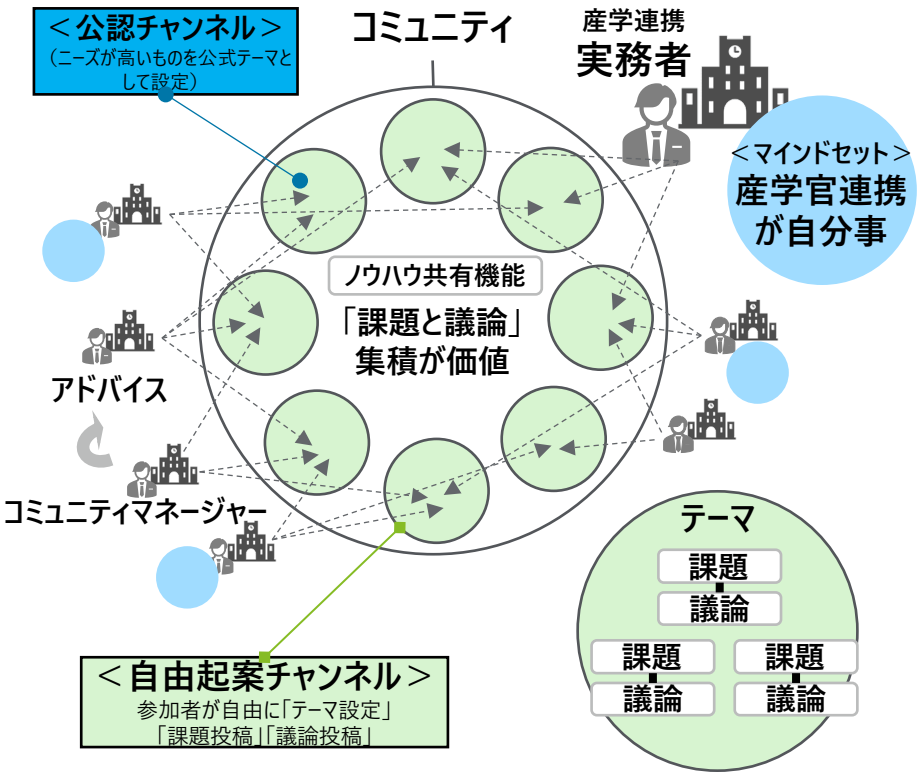
コミュニティのイメージ

コミュニティの自走・持続可能	コミュニティオーナーの存在	本事業を積極的に推進したい参加者
	参加者の産学官連携に対する自分事化	参加者として傍聴するのでなく、自らが主体的に参加をする （自分が抱える課題テーマについて、自発的・積極的に議論する）
コミュニティの課題解決機能	コミュニティのテーマ／目的の明確化	・産学官連携実務者の日常業務の課題に対し、コミュニティメンバーとの議論を通じ解決する ・テーマは１つに限らず複数存在してもいい
	課題（論点）・議論の集積（UGC）	課題に対しコミュニティメンバーが議論を行った結果の結論のみならず、議論自体も優良なコンテンツとして価値があるものになる
コミュニティの活性化・求心力	参加者内に自然発生コミュニティマネージャーがいる	議論テーマの内容や、コミュニティメンバーのニーズに基づき、面倒見のよいコミュニティメンバーが、情報の共有やネットワーキングを支援し、コミュニティを盛り上げる

あるべき姿の仮説

参加者が主役のコミュニティ

参加者が課題を持込、議論の蓄積がコンテンツになる状態を目指す



仮説策定にあたっての検討論点

コミュニティのあり方・機能	コミュニティの対象・目的	■ 今コミュニティの対象者および活動目的は何が適切か？
	コミュニティの機能	■ 本事業で具備すべきコミュニティの機能はどうあるべきか？
活動方針・テーマ	コミュニティの段階的醸成方法	■ 一足飛びにはコミュニティが完成しないことから、完成に向けてどのような進め方をとるべきか？
	具体的な検討テーマ	■ 本事業で扱うべき具体的なテーマはどのようなものが適切か？

一般的に、参加者の自主性が高いコミュニティにするためには、まずは運営主体がリードし、徐々にファシリテーションを弱めていくような足場架けの設計が重要です

計画的な自立的コミュニティ組成の考え方（一般論）

運営主体がリードするコミュニティ → 自主性高いコミュニティ移行期 → 参加者の自主性が高いコミュニティ

強いファシリテーション → 弱いファシリテーション

参加者のモチベーションや能力が未熟な場合に有用

運営主体が場をつくりこみ、参加者は受身で参加

（メリット）・コントローラブル
・目的に従い方向性通りのアウトプット

（デメリット）・参加者の自主性が発揮されにくい
・アウトプットの質の向上が難しい

・参加者が主体的に参加できる基盤整備
（目的・運営主体・ルール・PFのUIなど）
・参加の動機付け
（PR・取組意義の啓蒙）
・自主的に参加するよう「足場架け」機能を設計
（自走を支援する人的支援やセミナー・WSなど）

参加者のモチベーションや能力が高い場合に有用

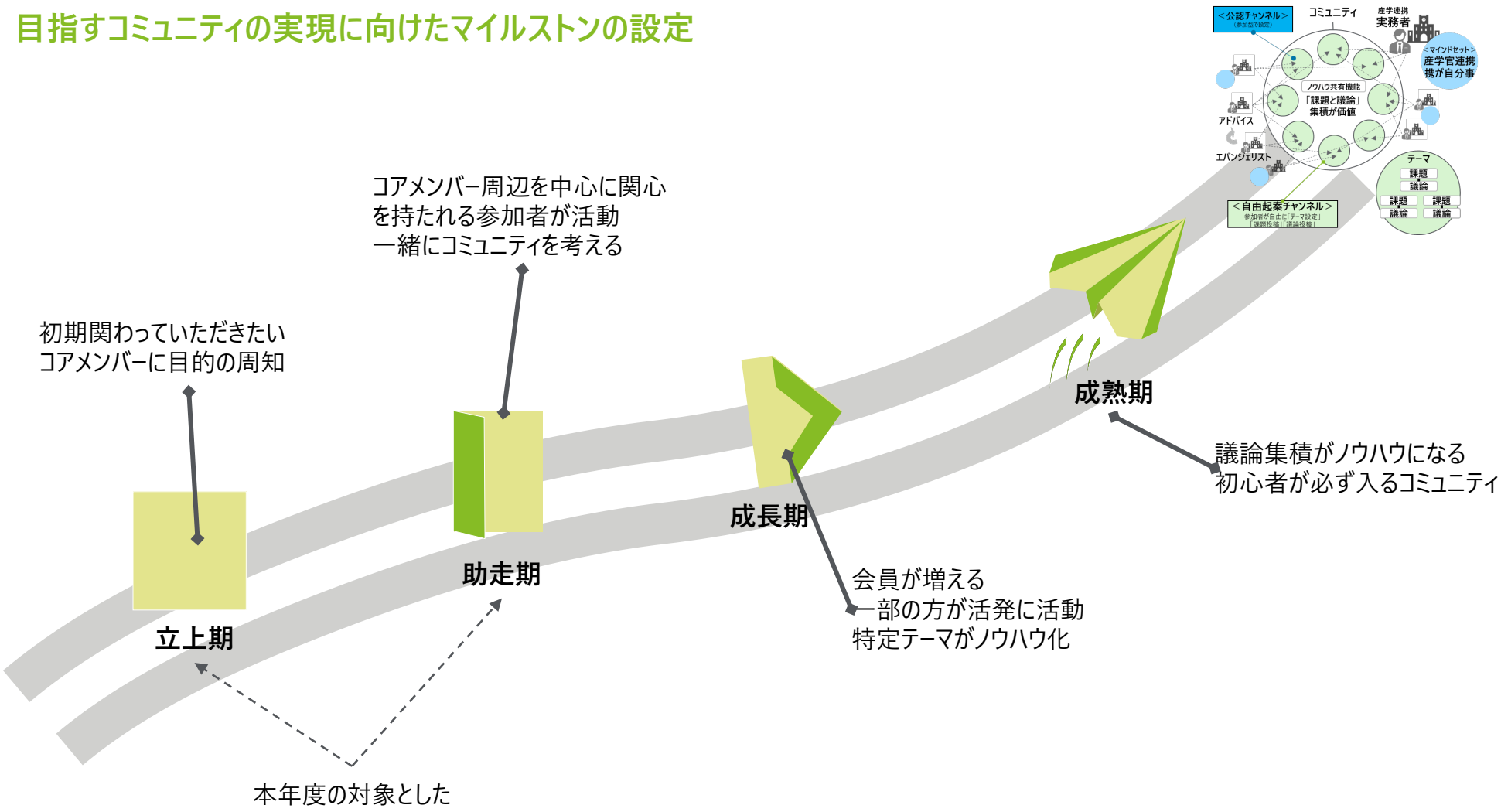
参加者が場づくりを行い、運営主体はサポート

（メリット）・参加者の熱量、内容の質が高まる
・飛躍的アウトプットが出ることがある

（デメリット）自然衰退のリスク

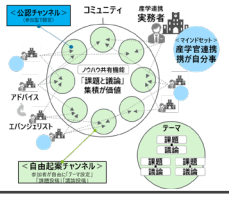
先述したコミュニティの姿は一足飛びには実現するのは困難なため、マイルストンを設定し、アプローチを進めることとしました

目指すコミュニティの実現に向けたマイルストンの設定



将来的な自主性高いコミュニティ醸成に向け、今年度は立ち上げと助走期間と設定し小規模での展開としました

コミュニティの段階的醸成方法

フェーズ	立上期	助走期	成長期	成熟期	あるべき姿
期間	1か月	3か月	12か月	12か月	
時期	2023年12月	～2024年3月	～2025年3月	～2026年3月	2026年度以降
状況	初期関わっていただきたいコアメンバーに目的の周知	コアメンバー周辺を中心に関心を持たれる参加者が活動 一緒にコミュニティを考える	会員が増える 一部の方が活発に活動 特定テーマがノウハウ化	「自分事」の方が増える 議論集積がノウハウになる 初心者が必ず入るコミュニティ	
コミュニティ	Slack	Slack	コミュニティの目指す姿に合わせて検討		
重点取組	初期コアメンバー誘致 コミュニティ目的整理→発信・啓蒙 現場課題・ニーズ整理→コミュニティ・コンテンツ方針に反映 コミュニティ立上・初期整備 コミュニティ形成の在り方を検討		参画者増に注力 自分事化プログラム試運転 理想形検討・開発	自分事化プログラム本格提供 理想形への移行	自走運用

立上期、助走期の取り組みとして、キックオフイベント、コアメンバーとのワークショップ、コミュニティの仲間探し活動、管理職セミナーを実施することとしました

立上期・助走期の取り組み事項

フェーズ	立上期	助走期
期間	1か月	3か月
時期	2023年12月	～2024年3月
状況	初期関わっていただきたいコアメンバーに目的の周知	コアメンバー周辺を中心に関心を持たれる参加者が活動一緒にコミュニティを考える
コミュニティ	Slack	Slack
重点取組	初期コアメンバー誘致	
	コミュニティ目的整理→発信・啓蒙 現場課題・ニーズ整理→コミュニティ・コンテンツ方針に反映	
	コミュニティ立上・初期整備	
	コミュニティ形成の在り方を検討	

キックオフイベント

■ 全国大学に対し、産学官連携実務者の課題、コミュニティの必要性についての意識醸成を図るとともに、新たなコミュニティの立上げに関する情報発信と、関与したいメンバー（コアメンバー）の募集を行う

ワークショップ

■ キックオフイベントをきっかけに、コアとなる大学の若手の産学連携実務者と、ワークショップ形式で、コミュニティの意義や機能、テーマ等について意見交換を行い、コミュニティの初期的な整備を進める

仲間探し

■ 今後のコミュニティの拡大に向けて、本コミュニティに関心にあるメンバーへの声掛けを実施する

管理職セミナー

■ コミュニティの拡大に向けては各大学での上司の理解が必要になることから、管理職層を対象としたセミナーを実施する

仮説策定にあたっての検討論点

コミュニティのあり方・機能	コミュニティの対象・目的	■ 今コミュニティの対象者および活動目的は何が適切か？
	コミュニティの機能	■ 本事業で具備すべきコミュニティの機能はどうあるべきか？
活動方針・テーマ	コミュニティの段階的醸成方法	■ 一足飛びにはコミュニティが完成しないことから、完成に向けてどのような進め方をとるべきか？
	具体的な検討テーマ	■ 本事業で扱うべき具体的なテーマはどのようなものが適切か？

本コミュニティの目的は課題を解決することであるため、参加者の課題を踏まえ、そこから本コミュニティで扱うべきテーマを検討します

検討テーマの策定方法

コミュニティの目的

若手の産学官連携実務者の業務上の課題を解決すること

本事業の背景・目的および、他の既存コミュニティの活動を踏まえ設定

課題解決の必要性

本コミュニティに参加する産学官連携実務者の方々は、
業務上の様々な課題を抱えており、それらの課題の解決に向けて議論がされるべき

本セクションでの検討事項

産学官連携実務者の課題の整理を通じ、コミュニティテーマ案を検討する

産学官連携実務者の課題は大きく整理すると、スキル・コミュニケーション・ネットワーク・情報の観点で整理されます

具体的な検討テーマ設定に向けた検討①

研究者が研究活動に専念できる環境を実現し、より高度な成果を生み出す

産学官連携実務者に求める期待役割・主な業務	現状の主な課題・悩み※
研究戦略推進支援業務 （政策情報等の調査・研究力の調査・研究戦略策定）	■ 海外事例等の参考に資する**情報入手や整理**が困難 ■ **政府動向、公募情報**の自大学該当有無や関連資料・**情報等の把握**に時間を要す ■ 研究者**の研究上の課題や内容についての一定の理解**が不足している 等
プレアワード業務 （PJ企画立案・外部資金情報収集・内部折衝・対外折衝・申請書作成）	■ 上位者への**気軽な相談**が難しい ■ 前任の引継ぎがなく、**キャッチアップに時間**を要す ■ **文科省担当者とのフランクな相談**ができない ■ **企業や他大学等の外部ネットワーク**が少ない ■ **企業との交渉**の進め方が難しい （前例主義・企業リードでの交渉） ■ **ドキュメントスキルや企画立案能力が不足**し、資金獲得や承認等の機会損失の可能性がある ■ **プロジェクトのマネジメントスキル**が不足し、予定通りに進めるのが難しい ■ 政府動向、公募情報の自大学該当有無や関連資料・情報等の把握に時間を要す　等
ポストアワード業務 （PJ実施のための対外折衝・調整・進捗管理・予算管理等）	
関連専門業務・その他 （知財・広報・国際連携支援・産学官連携支援等）	■ 法務面での**雛形確認**や**契約や知財に関する法的な理解**や判断が難しい　等

課題の整理		
個人の課題	**スキル**	■ 求められるスキルや業務が多岐に渡っており、不足スキルがある
大学内の課題	**コミュニケーション**	■ 学内関係者との自由な意見交換が難しい
大学間連携・大学外の課題	**ネットワーク**	■ 大学間連携があまり進んでおらず、ノウハウやネットワークが生かし切れていない ■ 自大学で保有するネットワークが限られ必然的に相談先・連携先が限られる
	情報	■ 必要な情報にスムーズにアクセスし、自大学に有益な情報を抽出・判断に時間を要す

※「地域の中核・特色ある研究大学に向けた産学官連携推進にあたってのコミュニケーション・プラットフォームの在り方に関する調査・分析」及び当法人類似業務をもとに当法人整理

インタビューを踏まえると、制度やスキル・キャリア、研究シーズに関するニーズが伺えました

具体的な検討テーマ設定に向けた検討②

課題の整理

個人の課題

スキル

- 求められるスキルや業務が多岐に渡っており、不足スキルがある

大学内の課題

コミュニケーション

- 学内関係者との自由な意見交換が難しい

大学間連携・大学外の課題

ネットワーク

- 大学間連携があまり進んでおらず、ノウハウやネットワークが生かし切れていない
- 自大学で保有するネットワークが限られ必然的に相談先・連携先が限られる

情報

- 必要な情報にスムーズにアクセスし、自大学に有益な情報を抽出・判断に時間を要す

インタビューやアンケートを踏まえ
整理されたテーマの方向性

制度関連

- 研究インテグリティ、データマネジメント等への対応
- 博士人材のキャリアの検討

- *大学間競争以前に、**日本全体の科学技術力向上に向けては、各テーマの基盤は共通化されるべき**（先行大学の事例をもとに自大学向けに更新する等は、設計思想等の背景からの理解が必要で、特に短期間での対応は難しい）*

スキル・キャリア

- 外部資金獲得に向けた申請書類等の共有
- URAや事務職員としてのキャリア形成
- クロスアポイントメント等による人材配置　等

- *所属する大学によって得られる経験が異なる例えば、国際卓越・地域中核等に準ずる大学か否かで、各種申請書類の経験値が異なり、**所属する大学に起因するスキル格差**の是正が必要と考える*
- *自大学内でロールモデルとなる人材と交流する機会が限られ、**自身のキャリアパス**が見えない*
- *特に支援件数が少ない場合等、必ずしも専門人材を1大学で抱える必要はなく、地域単位でシェアするなど、**人材の流動化**が必要と考える*

研究シーズ

- 他大学の研究シーズの把握や研究者とのネットワーク

- *自大学と同じように他**大学の研究シーズの把握や研究者やキーパーソンとの関係構築が難しい**ため、産業界との共同研究提案や省庁等の資金獲得等で、最適な提案が難しい場合がある*

インタビューを踏まえると、制度やスキル・キャリア、研究シーズに関するニーズを踏まえ、いくつかのテーマ案を設定しました

具体的な検討テーマ設定（調査・ヒアリング等踏まえいくつかの案を検討）

制度関連

- 研究インテグリティ、データマネジメント等への対応
- 博士人材のキャリアの検討

- *大学間競争以前に、<u>日本全体の科学技術力向上に向けては、各テーマの基盤は共通化されるべき</u>（先行大学の事例をもとに自大学向けに更新する等は、設計思想等の背景からの理解が必要で、特に短期間での対応は難しい）*

スキル・キャリア

- 外部資金獲得に向けた申請書類等の共有
- URAや事務職員としてのキャリア形成
- クロスアポイントメント等による人材配置　等

- *所属する大学によって得られる経験が異なる例えば、国際卓越・地域中核等に準ずる大学か否かで、各種申請書類の経験値が異なり、<u>所属する大学に起因するスキル格差</u>の是正が必要と考える*
- *自大学内でロールモデルとなる人材と交流する機会が限られ、<u>自身のキャリアパス</u>が見えない*
- *特に支援件数が少ない場合等、必ずしも専門人材を1大学で抱える必要はなく、地域単位でシェアするなど、<u>人材の流動化</u>が必要と考える*

研究シーズ

- 他大学の研究シーズの把握や研究者とのネットワーク

- *自大学と同じように他<u>大学の研究シーズの把握や研究者やキーパーソンとの関係構築が難しい</u>ため、産業界との共同研究提案や省庁等の資金獲得等で、最適な提案が難しい場合がある*

テーマ案

研究インテグリティ

- **自大学の研究インテグリティの確保に向けた現状評価と課題整理**
  （ガイドライン、教育等、自大学での不足事項の把握、先進大学事例を把握し、今後の取り組むべき事項を整理する）

博士人材のキャリア

- **自大学の博士人材のキャリア支援の更なる強化**
  （支援制度の整理（自大学でまだ取り組みはないが出来そうなことはないか）、・他大学の成功事例を通じ、自大学のキャリア支援を強化する）

産学官連携実務者のキャリアデザイン

- **産学連携実務者の更なる活性化に向けたスキル整理とマインドセット**
  産学連携実務者に求められるスキル、若手が身に着けるべきスキルを整理し、現状とのGAPを認識する

研究データマネジメント

- **自大学の研究データマネジメント推進に向けた現状の評価と課題整理**
  （データポリシー策定、研究データマネジメント体制の構築、情報インフラの提供（ストレージリポジトリ、データ分析基盤の提供）、IRによるデータの公開等、自大学での不足事項の把握、先進大学事例を把握し今後の取組むべき事項を整理）

以上を踏まえ、コミュニティの在り方・機能、活動方針・テーマについてそれぞれ仮説を設定しました

コミュニティの仮説まとめ

コミュニティのあり方・機能	コミュニティの対象・目的	■ 産学官連携の若手実務者（URAに限らず、事務職員等、多様な職種の方々が参画） ■ 日常業務の課題解決
	コミュニティの機能	■ 議論やコミュニケーションを通じた課題解決 ・コミュニティメンバー間の議論を通じ、自分自身が課題に抱えている事、分からないことが解決される ■ ノウハウや事例の蓄積 ・コミュニティ上に課題解決に致るコンテンツが蓄積される
活動方針・テーマ	コミュニティの段階的醸成方法	■ 一足飛びにコミュニティは完成されないことから、立上げ・助走段階として コミュニティのコアメンバー候補と、小規模で活動し、次年度以降徐々に仲間を増やし拡大をさせる
	具体的な検討テーマ	■ 研究インテグリティ ■ 研究データマネジメント ■ 博士人材のキャリア ■ 産学官連携実務者のキャリアデザイン

目次

No	項目	ページ番号
1	はじめに（本事業の概要・実施方法）	5
2	コミュニティの必要性の整理	9
3	類似コミュニティに見る目的・機能整理	１４
4	仮説策定	２２
5	仮説検証	４１
6	自走化にむけた準備	５８
7	本事業を通じ今後検討すべき論点	６７

本章では、仮説をもとにコミュニティのあり方・機能の検証について取りまとめております

調査のアプローチと検討の観点

STEP1 現状認識　・仮説策定

現状認識

■ **コミュニティの必要性の整理**
産学官連携現場の情報共有・課題共有の現状の課題を整理する
（デスク調査及び大学関係者へのヒアリング）

■ **類似コミュニティに見る目的・機能整理**
国内外類似コミュニティから示唆を得る
（デスク調査及び大学関係者へのヒアリング）

仮説策定

■ **本事業で行う事業の仮説策定**
現場課題や既存コミュニティの差別化を踏まえ、本事業で扱うべきコミュニティの方向性を検討

コミュニティのあり方・機能　　活動方針・テーマ

STEP2 仮説検証

論点	ワークショップ1回目	ワークショップ2回目	自走化にむけた準備
あり方・機能の検討	コミュニティの意義の腹落ち ■ メンバーが抱える課題共有をもとに、多職種連携の意義とコミュニティを新たに創る必要性を検討	コミュニティの在り方に関する合意形成 ■ メンバーの腹落ち感を前提に、既存コミュニティとの差別化を切り口に検討	新メンバーを通じたあり方のブラッシュアップ ■ メンバーからの意見と、新メンバーからの意見を通じたあり方のブラッシュアップ（自分がわくわくするか、周りを誘いたいか、上司が参加させたいと思うかの観点でコメント）
活動方針・テーマの検討	テーマの方向性の検討 ■ 制度、スキル、キャリア、研究シーズの観点で仮説テーマを設定し、メンバーの課題をもとに議論	テーマの方向性の深掘 ■ WS①で合意されたテーマ案（URAの意義・多職種連携すべき業務）について各メンバーの意見を募った	管理職の意見を踏まえたブラッシュアップ ■ 管理職の理解に向け、管理職へのヒアリングを行った

STEP3

本事業を通じ今後検討すべき論点

小規模での産学官連携実務者とのワークショップを通じ、設定した仮説の検証を進めました

仮説検証の進め方

		設定した仮説	検証の進め方
コミュニティのあり方・機能	コミュニティの対象・目的	■ 産学官連携の若手実務者（URAに限らず、事務職員等、多様な職種の方々が参画） ■ 日常業務の課題解決	■ 10名前後の若手の産学官連携実務者とのワークショップを実施し、**現状の実務面の課題や、コミュニティに対する期待**等について意見交換を実施 ■ 既存コミュニティとの違いを考慮しながら、**コミュニティの意義**について意見交換を実施
	コミュニティの機能	■ 議論やコミュニケーションを通じた課題解決 ・コミュニティメンバー間の議論を通じ、自分自身が課題に抱えている事、分からないことが解決される ■ ノウハウや事例の蓄積 ・コミュニティ上に課題解決に致るコンテンツが蓄積される	■ 引き続き、若手の産学連携実務者との会議にて**どのような機能があればコミュニティに参加したいと思うか**について、既存コミュニティとの違いを考慮しながら意見交換を実施

ワークショップは、本コミュニティへの立ち上げに関心を持った大学の事務職員・URAの方々にお集り頂きました

ワークショップに参加した大学の産学官連携実務者

参加経緯

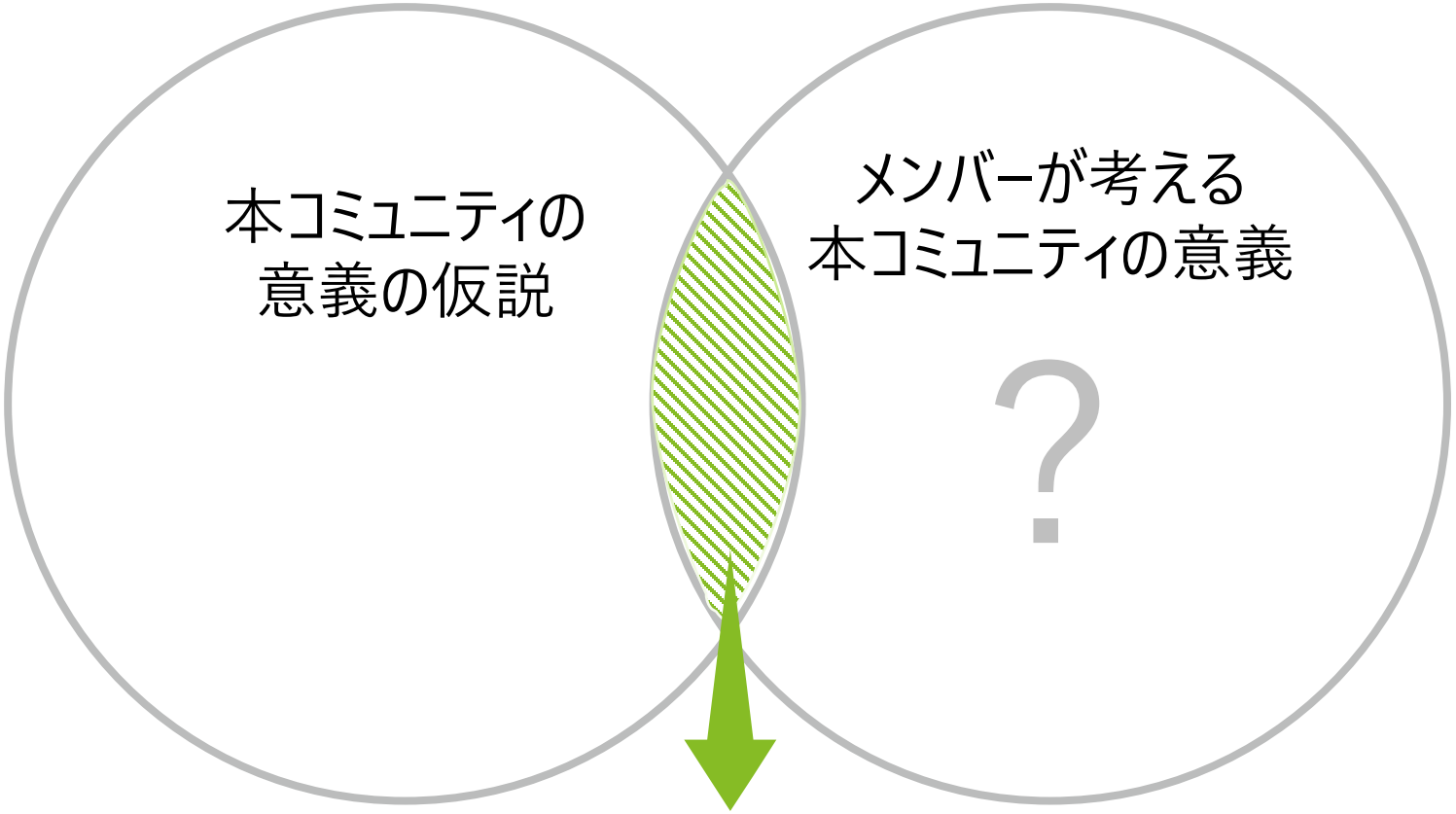
キックオフイベントを通じ、
本コミュニティへの立ち上げに関心を持った大学の事務職員・URAの方々

キックオフイベントを通じ、
今コミュニティへの立ち上げに関心を持った大学の事務職員・URAの方々から、個別の誘いがあった方々

No.	大学区分	職種	性別
1	都市部　国公立大学	URA関連	女性
2	都市部　国公立大学	URA関連	女性
3	都市部　国公立大学	事務関連	女性
4	都市部　私立大学	事務関連	男性
5	地方　国公立大学	URA関連	男性
6	地方　国公立大学	URA関連	男性
7	地方　国公立大学	URA関連	男性
8	地方　国公立大学	URA関連	女性
9	地方　国公立大学	URA関連	女性
１０	地方　私立大学	事務関連	男性

メンバーが抱える現状の課題、コミュニティへの期待を踏まえ、新たなコミュニティの意義の言語化を図りました

議論のイメージ



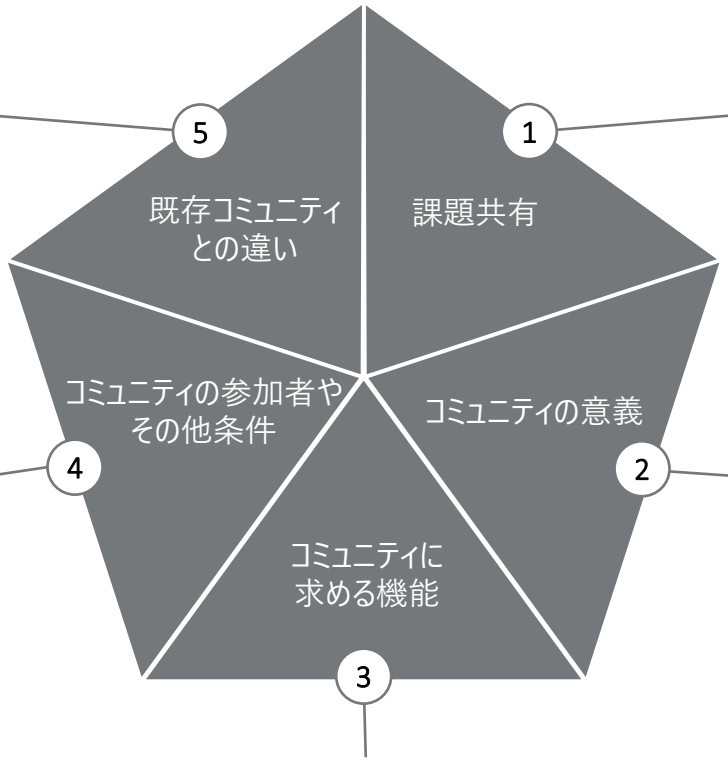
ここを最大化させ
“コミュニティの意義”の腹落ちを図る

課題共有、コミュニティの意義、コミュニティの求める機能、参加者、既存コミュニティとの違いといった観点で若手実務者の方々とワークショップを行いました

議論のステップ

■ このコミュニティは既存コミュニティとどんな点で違いを出すべきか？

日常業務を進める中でどのような点で課題を抱えているか



■ このコミュニティの活動者は誰か？
■ コミュニティのメンバーに求める条件は何か？

新たに創るコミュニティの存在価値は何か

■ 目的を達成するのは、どのような機能が必要か
■ どのような機能があれば参加したいと思うか

日常業務の具体的な課題解決に加え、今後の自大学の在り方等の大学経営に関することについて議論できる場であれば、コミュニティの意義があると考えられます

ワークショップのまとめ（課題・意義）1/3

課題共有

コミュニティで解決できる課題は何かを検討するため、参加者の課題感を共有

事務系の課題

- 人材の配置戦略がうまくいっていない・業務適正化ができていない
  ・定期異動・スキルが人に属す中で、ローテーション次第で業務が回らなくなる時がある
- 事務手続きの適正化ができていない、属人的な部分もある（安全保障・輸出管理・研究インテグリティ・研究データオープン等）のテーマについて好事例だけでなく失敗談・苦労等を共有されたい
- URAと事務職員の役割が明確に定義できていない　等

URA系の課題

- URAの存在意義が認められていない・評価が不明確
- 各大学でURAの人手不足・若手の育成
- 人手不足のため、事務職員含めて既存リソースでの効率的な業務推進がなされていない
- URAが高い視座で大学の研究力強化や経営という視点を持って活動できていない
- URAの視点でも事務職員との連携が不足していると感じる　等

コミュニティの意義

共有された課題は自大学だけでの解決は難しく、大学間連携や多職種での連携が必要であり、この重要性を言語化

- 若手が高い視座で大学が目指す先・経営を考えていくことができる
- ノウハウの共有/同職種間でのスキルアップが図れる
- 産学官連携において、個別大学では抱えきれない専門人材の活用・共有ができる
  ➢多様なステークホルダーを繋ぎ、産学官連携の更なる推進

示唆

目的

- 既に類似コミュニティがある中で、議論で出た課題を踏まえると、**日常業務の具体的な課題解決につながる場**に加え、今後の自大学の在り方等の**大学経営に関することについて議論できる場**であれば、コミュニティの意義があると考えられる

機能は議論を踏まえた発信、情報共有、参加者は若手がより具体的に将来の大学経営を担う実務者と表現され、文科省が関与しているといったことが意義として考えられます

ワークショップのまとめ（機能・参加者・既存コミュニティとの違い）2/3

機能	コミュニティの参加者やその他条件	既存コミュニティとの違い
■ 将来(10－20年先)の大学経営全般(後進の育成も含む)、研究力向上に向けた発信機能 ➢テーマに応じた発信先を選定する(一般社会向け・博士人材・・・など) ■ 実務課題を含む情報共有 ➢コアメンバー同士の情報共有だけではなく、文科省側からの最新の各種情報発信も想定する。 ➢事務職員も業務の一環という文脈でコミュニティに参加しやすいよう、実務課題というキーワードは含めておく	■ 10年－20年後の大学経営を担う、若手かつ実務者 ■ コアメンバはコミュニティ内で可能な限り発信・発言すること	■ メンバの構成が若手・実務者であることに加え、大学経営に関するテーマを発信する機能を有していること ■ 文科省がコミュニティに関与していること

示唆

機能

■ 機能は主に、議論を踏まえた**発信機能**と**情報共有**といった2つの機能が求められている
➢テーマに応じた適切な先へ**発信する機能**が求められている
➢**実務に役立つ情報が共有される機能**（事務職員の方が参加しやすいように具体的な業務に関する情報という観点と、文科省からの情報発信）が求められている

メンバー

■ コミュニティの対象は、**た将来の大学経営を担う若手・中堅の実務者**といった経営の視点が加わり、**高い視座**を持つことが求められている

■ **文科省が本コミュニティに関与している**ということが他のコミュニティとの大きな違いとして考えられる

議論を踏まえ、新しいコミュニティの意義や何をするのか（活動の目的・参加対象・具備すべき機能等）をイメージに起こし、引き続き議論を進めています

ワークショップのまとめ 3/3 ※

※以後も意見交換をしており、下図は最終のものでないことに留意

次々世代の大学経営者よ！
共に学び、共に挑戦しよう！！

本コミュニティは、日本の大学の科学技術力の向上を目的に
地域中核大学等の次々世代を担う実務者による参画型コミュニティです

目的

発信　**機能**

匿名性を担保

内容によっては

現場課題やニーズを関係先に発信する場

✓コミュニティでの議論が実務の課題解決につながったり、
今後の更なる科学技術発展につながるよう、
テーマ事に適切な発信を行う
（大学の経営層、文科省、産業界等）

産学官連携
実務者コミュニティ

情報共有　**機能**

実務に関する課題解決・スキル向上・情報交換の場

✓各テーマについて議論や情報共有を行う

文科省からの情報共有の場

✓コミュニティメンバーに対し、国からも動向や政策等の
情報を発信し、理解促進・機運を高める

コミュニティメンバー

メンバー

地域中核大学等の
次々世代の大学経営を担う
若手産学官連携実務者

主体

URA・事務職員等

文部科学省

本章では、仮説をもとに活動方針・テーマの検討の検証について取りまとめております

調査のアプローチと検討の観点

STEP1 現状認識　・仮説策定

現状認識

■ **コミュニティの必要性の整理**
産学官連携現場の情報共有・課題共有の現状の課題を整理する
（デスク調査及び大学関係者へのヒアリング）

■ **類似コミュニティに見る目的・機能整理**
国内外類似コミュニティから示唆を得る
（デスク調査及び大学関係者へのヒアリング）

仮説策定

■ **本事業で行う事業の仮説策定**
現場課題や既存コミュニティの差別化を踏まえ、本事業で扱うべきコミュニティの方向性を検討

コミュニティのあり方・機能　　活動方針・テーマ

STEP2 仮説検証

論点	ワークショップ1回目	ワークショップ2回目	自走化にむけた準備
あり方・機能の検討	コミュニティの意義の腹落ち ■ メンバーが抱える課題共有をもとに、多職種連携の意義とコミュニティを新たに創る必要性を検討	コミュニティの在り方に関する合意形成 ■ メンバーの腹落ち感を前提に、既存コミュニティとの差別化を切り口に検討	新メンバーを通じたあり方のブラッシュアップ ■ メンバーからの意見と、新メンバーからの意見を通じたあり方のブラッシュアップ（自分がわくわくするか、周りを誘いたいか、上司が参加させたいと思うかの観点でコメント）
活動方針・テーマの検討	テーマの方向性の検討 ■ 制度、スキル、キャリア、研究シーズの観点で仮説テーマを設定し、メンバーの課題をもとに議論	テーマの方向性の深掘 ■ WS①で合意されたテーマ案（URAの意義・多職種連携すべき業務）について各メンバーの意見を募った	管理職の意見を踏まえたブラッシュアップ ■ 管理職の理解に向け、管理職へのヒアリングを行った

STEP3

本事業を通じ今後検討すべき論点

小規模での産学官連携実務者とのワークショップを通じ、設定した仮説の検証を進めました

仮説検証の進め方

		設定した仮説	検証の進め方
活動方針・テーマ	具体的な検討テーマ	■ 研究インテグリティ ■ 研究データマネジメント ■ 博士人材のキャリア ■ 産学官連携実務者のキャリアデザイン	■ ヒアリング・調査結果を踏まえ、事務局にて検討したテーマ案を呼び水として示しながら、各メンバーの現場での課題共有をSlackも活用しながら行い、具体的なテーマを検討
	コミュニティの段階的醸成方法	■ 一足飛びにコミュニティは完成されないことから、立上げ・助走段階としてコミュニティのコアメンバー候補と、小規模で活動し、次年度以降徐々に仲間を増やし拡大をさせる	■ コミュニティのメンバーを見つけるための最適な方法について議論

再掲

議論の呼び水として、課題を踏まえたテーマ案を参考として提示しました

具体的な検討テーマ

コミュニティの段階的醸成方法

テーマ案（調査・ヒアリング等踏まえいくつか設定）

制度関連

- 研究インテグリティ、データマネジメント等への対応
- 博士人材のキャリアの検討

- *大学間競争以前に、<u>日本全体の科学技術力向上に向けては、各テーマの基盤は共通化されるべき</u>（先行大学の事例をもとに自大学向けに更新する等は、設計思想等の背景からの理解が必要で、特に短期間での対応は難しい）*

スキル・キャリア

- 外部資金獲得に向けた申請書類等の共有
- URAや事務職員としてのキャリア形成
- クロスアポイントメント等による人材配置　等

- *所属する大学によって得られる経験が異なる例えば、国際卓越・地域中核等に準ずる大学か否かで、各種申請書類の経験値が異なり、<u>所属する大学に起因するスキル格差</u>の是正が必要と考える*
- *自大学内でロールモデルとなる人材と交流する機会が限られ、<u>自身のキャリアパス</u>が見えない*
- *特に支援件数が少ない場合等、必ずしも専門人材を1大学で抱える必要はなく、地域単位でシェアするなど、<u>人材の流動化</u>が必要と考える*

研究シーズ

- 他大学の研究シーズの把握や研究者とのネットワーク

- *自大学と同じように他<u>大学の研究シーズの把握や研究者やキーパーソンとの関係構築が難しい</u>ため、産業界との共同研究提案や省庁等の資金獲得等で、最適な提案が難しい場合がある*

テーマ案

研究インテグリティ

- **自大学の研究インテグリティの確保に向けた現状評価と課題整理**
  （ガイドライン、教育等、自大学での不足事項の把握、先進大学事例を把握し、今後の取り組むべき事項を整理する）

博士人材のキャリア

- **自大学の博士人材のキャリア支援の更なる強化**
  （支援制度の整理（自大学でまだ取り組みはないが出来そうなことはないか）、・他大学の成功事例を通じ、自大学のキャリア支援を強化する）

産学官連携実務者のキャリアデザイン

- **産学連携実務者の更なる活性化に向けたスキル整理とマインドセット**
  産学連携実務者に求められるスキル、若手が身に着けるべきスキルを整理し、現状とのGAPを認識する

研究データマネジメント

- **自大学の研究データマネジメント推進に向けた現状の評価と課題整理**
  （データポリシー策定、研究データマネジメント体制の構築、情報インフラの提供（ストレージリポジトリ、データ分析基盤の提供）、IRによるデータの公開等、自大学での不足事項の把握、先進大学事例を把握し今後の取組むべき事項を整理）

事務職員にとっては業務に日常業務に直結し、かつURAとも協議する意義がある内容、URAにとっては目指す姿とその具現化に向けた検討等の観点でテーマが考えられます

具体的な検討テーマ

コミュニティの段階的醸成方法

ワークショップのまとめ

課題

スキル・キャリア

- URAの存在意義が認められていない
- 様々な分野で活躍されている素晴らしいURAの方々がたくさんおり、非常に社会的意義のある仕事にも関わらず、評価されきれていない
- 任期付き雇用、評価指標が定まっていない　等

制度関連

- 大学を問わず、どの大学でも共通化されるべき業務（安全保障・輸出管理・研究インテグリティ・研究データオープン等）があると考えるが、それが大学毎の対応になっているケースが多い。、また、事務職員だけで関係しない業務がある
- 各大学の好事例はよく聞くが、失敗談・苦労等が見えず参考になりにくい　等

研究シーズ

- 大学発スタートアップ支援の観点になるが、各大学似たような支援が多く、大学あたりのリソースが限られており、合同でできるとよい
- 他大学の研究シーズの把握が把握しづらい、研究者とのネットワークが属人的である　等

示唆

- URAの現状の課題（URAの存在意義が不明瞭）に対し、**目指す姿や、その具現化に向けた検討**結果等を発信することができれば、テーマとして大いに検討できる

示唆

- 学内で多職種の連携ができていない。**多職種で相互理解を深めることで、研究者支援がより充実する**
- **日常業務に直結する内容**は、事務職員にとっても参加しやすく、コミュニティの活動テーマとして期待できる

一般的には、大規模多数や小規模少数での集め方が考えられるが、現状を加味すると、仮説として小規模少数のほうがよいと考えられます

具体的な検討テーマ

コミュニティの段階的醸成方法

参考：コミュニティメンバーの代表的な募集方法

	大規模多数 多数に向けての情報発信・コミュニティの入会案内	小規模少数 小規模での情報発信・コミュニティの入会案内
例	オンライン形式でのセミナー等	個別説明会等
主なメリット	一度に多くの人にリーチすることができ、（特にテーマが明確な際は）多くの関心を惹きやすい	■ 候補者と直接的な接触が可能であり、大規模なオンラインセミナーと比べると深い関係性を気づきやすい ■ また参加者のニーズや関心をより詳細に把握することができる
主なデメリット	小規模の個別相談会等と比べると、参加者との関係性を気づくのが難しい	一度にリーチできる人数が限られる
本コミュニティの場合	コミュニティの立ち上げの状況であり、 具体的な活動テーマが決まっていない中では不適切か	コミュニティの立ち上げの状況であり、 具体的な活動テーマが決まっていない中であるが、 個別に細かく対応できるため、今の段階ではこちらが適切か

仮説検証の結果、特に機能面で、コミュニティでの議論を踏まえた適切な先への発信機能や、情報発信の機能が求められていることが分かりました

仮説のまとめ

		初期仮説	ワークショップの結果
コミュニティのあり方・機能	コミュニティの対象・目的	■ 産学官連携の若手実務者（URAに限らず、事務職員等、多様な職種の方々が参画） ■ 日常業務の課題解決	■ 将来の大学経営を担う、若手・中堅の実務者（URAに限らず、事務職員等、多様な職種の方々が参画） ■ 日常業務の課題解決
	コミュニティの機能	■ 議論やコミュニケーションを通じた課題解決 ・コミュニティメンバー間の議論を通じ、自分自身が課題に抱えている事、分からないことが解決される ■ ノウハウや事例の蓄積 ・コミュニティ上に課題解決に致るコンテンツが蓄積される	■ コミュニティでの議論を踏まえた適切な先への発信機能 ■ 情報発信機能（事務職員が参加しやすいように具体的な業務に関する情報発信、文科省からの情報発信）
活動方針・テーマ	コミュニティの段階的醸成方法	■ 一足飛びにコミュニティは完成されないことから、立上げ・助走段階として コミュニティのコアメンバー候補と、小規模で活動し、次年度以降徐々に仲間を増やし拡大をさせる	■ 新たに加わるメンバーへの心理的安全性の観点から、個別に声をかけて着実に増やしていくことが望ましい
	具体的な検討テーマ	■ 研究インテグリティ ■ 研究データマネジメント ■ 博士人材のキャリア ■ 産学官連携実務者のキャリアデザイン	■ 多職種で相互理解を深めることができるテーマやURAのキャリア・目指す姿に関するテーマが期待できる

参考

参加者と実施スケジュール（ワークショップ1回目、2回目）

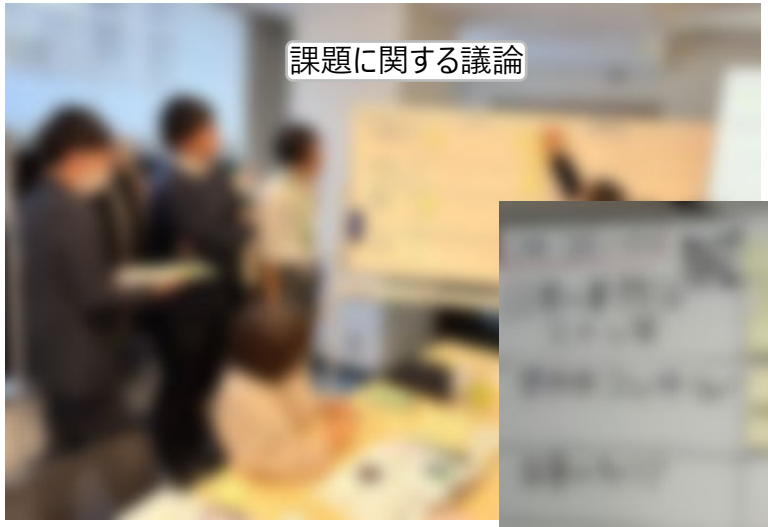
No.	大学区分	職種	性別
1	都市部　国公立大学	URA関連	女性
2	都市部　国公立大学	URA関連	女性
3	都市部　国公立大学	事務関連	女性
4	都市部　私立大学	事務関連	男性
5	地方　国公立大学	URA関連	男性
6	地方　国公立大学	URA関連	男性
7	地方　国公立大学	URA関連	男性
8	地方　国公立大学	URA関連	女性
9	地方　国公立大学	URA関連	女性
１０	地方　私立大学	事務関連	男性

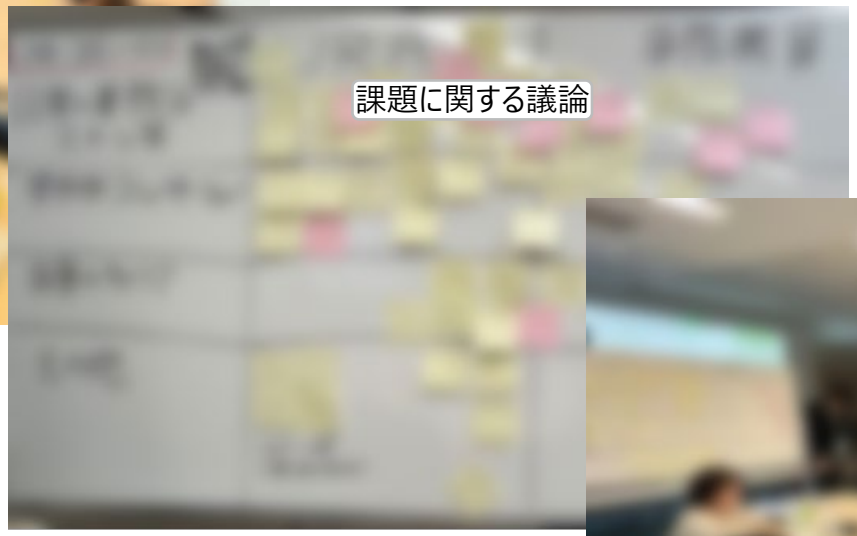
時間	1回目アジェンダ
13:30-13:45	オリエンテーション（全体概要）
13:45-14:00	自己紹介
14:00-15:30	自大学における課題共有
15:30-17:30	今後議論したい課題の検討・決定 次回以降の日程調整・事務連絡
17:30-19:00	懇親会

時間	アジェンダ2回目アジェンダ
10:00-10:10	オリエンテーション
10:10-11:40	コミュニティの意義の検討
11:40-12:10	コミュニティのメンバー見つけるための環境づくりの検討
12:10-12:30	URAの課題
12:30-12:50	多職種連携

参考

ワークショップの様子（個人情報、機密情報が含まれるため写真は加工）





目次

No	項目	ページ番号
1	はじめに（本事業の概要・実施方法）	5
2	コミュニティの必要性の整理	9
3	類似コミュニティに見る目的・機能整理	１４
4	仮説策定	２２
5	仮説検証	４１
6	自走化にむけた準備	５８
7	本事業を通じ今後検討すべき論点	６７

本章では、自走化にむけた準備について取りまとめております

調査のアプローチと検討の観点

STEP1　現状認識　・仮説策定

現状認識

■ **コミュニティの必要性の整理**
産学官連携現場の情報共有・課題共有の現状の課題を整理する
（デスク調査及び大学関係者へのヒアリング）

■ **類似コミュニティに見る目的・機能整理**
国内外類似コミュニティから示唆を得る
（デスク調査及び大学関係者へのヒアリング）

仮説策定

■ **本事業で行う事業の仮説策定**
現場課題や既存コミュニティの差別化を踏まえ、本事業で扱うべきコミュニティの方向性を検討

コミュニティのあり方・機能　　活動方針・テーマ

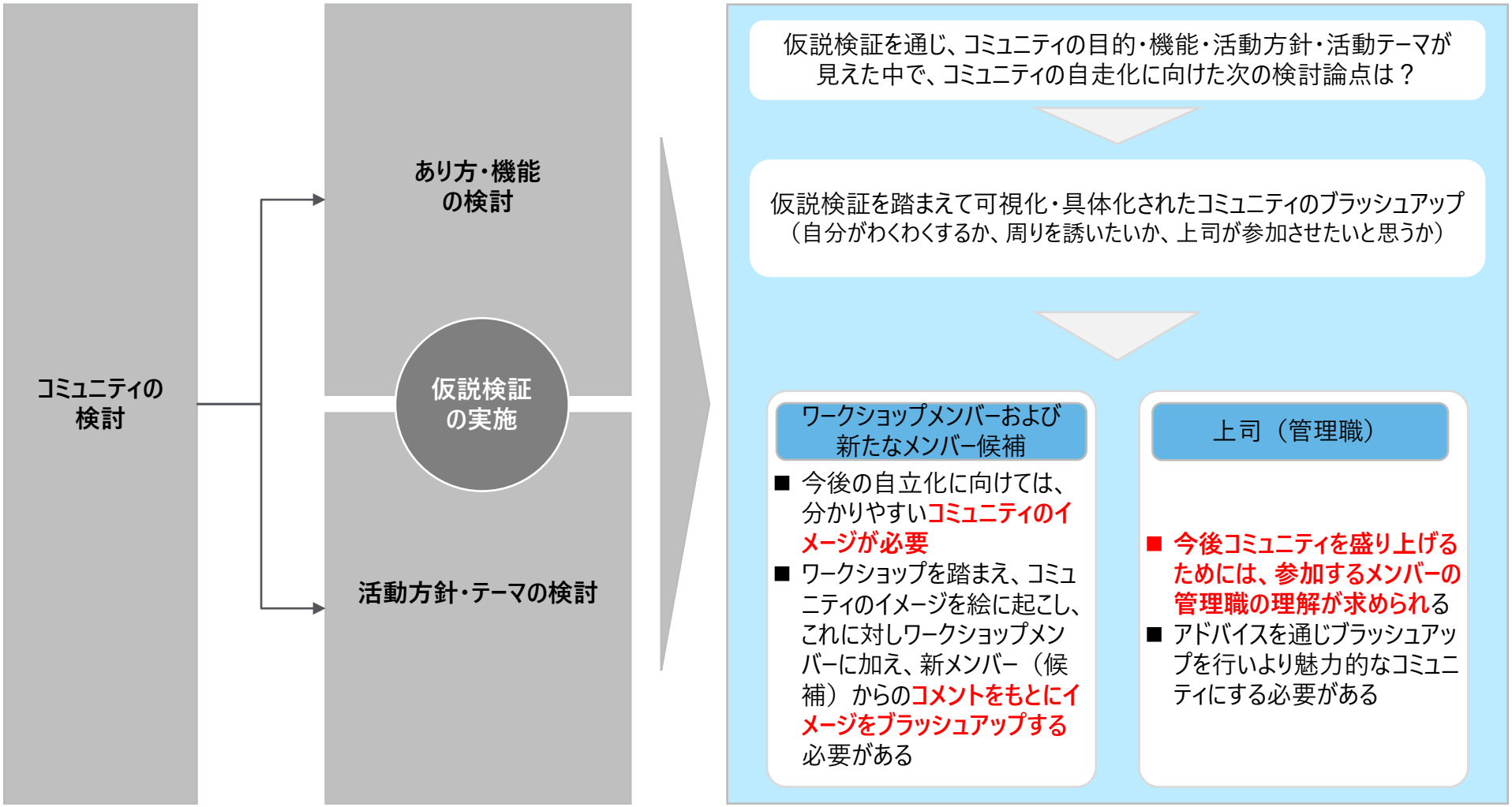
STEP2　仮説検証

論点	ワークショップ1回目	ワークショップ2回目	自走化にむけた準備
あり方・機能の検討	コミュニティの意義の腹落ち ■ メンバーが抱える課題共有をもとに、多職種連携の意義とコミュニティを新たに創る必要性を検討	コミュニティの在り方に関する合意形成 ■ メンバーの腹落ち感を前提に、既存コミュニティとの差別化を切り口に検討	新メンバーを通じたあり方のブラッシュアップ ■ メンバーからの意見と、新メンバーからの意見を通じたあり方のブラッシュアップ（自分がわくわくするか、周りを誘いたいか、上司が参加させたいと思うかの観点でコメント）
活動方針・テーマの検討	テーマの方向性の検討 ■ 制度、スキル、キャリア、研究シーズの観点で仮説テーマを設定し、メンバーの課題をもとに議論	テーマの方向性の深掘 ■ WS①で合意されたテーマ案（URAの意義・多職種連携すべき業務）について各メンバーの意見を募った	管理職の意見を踏まえたブラッシュアップ ■ 管理職の理解に向け、管理職へのヒアリングを行った

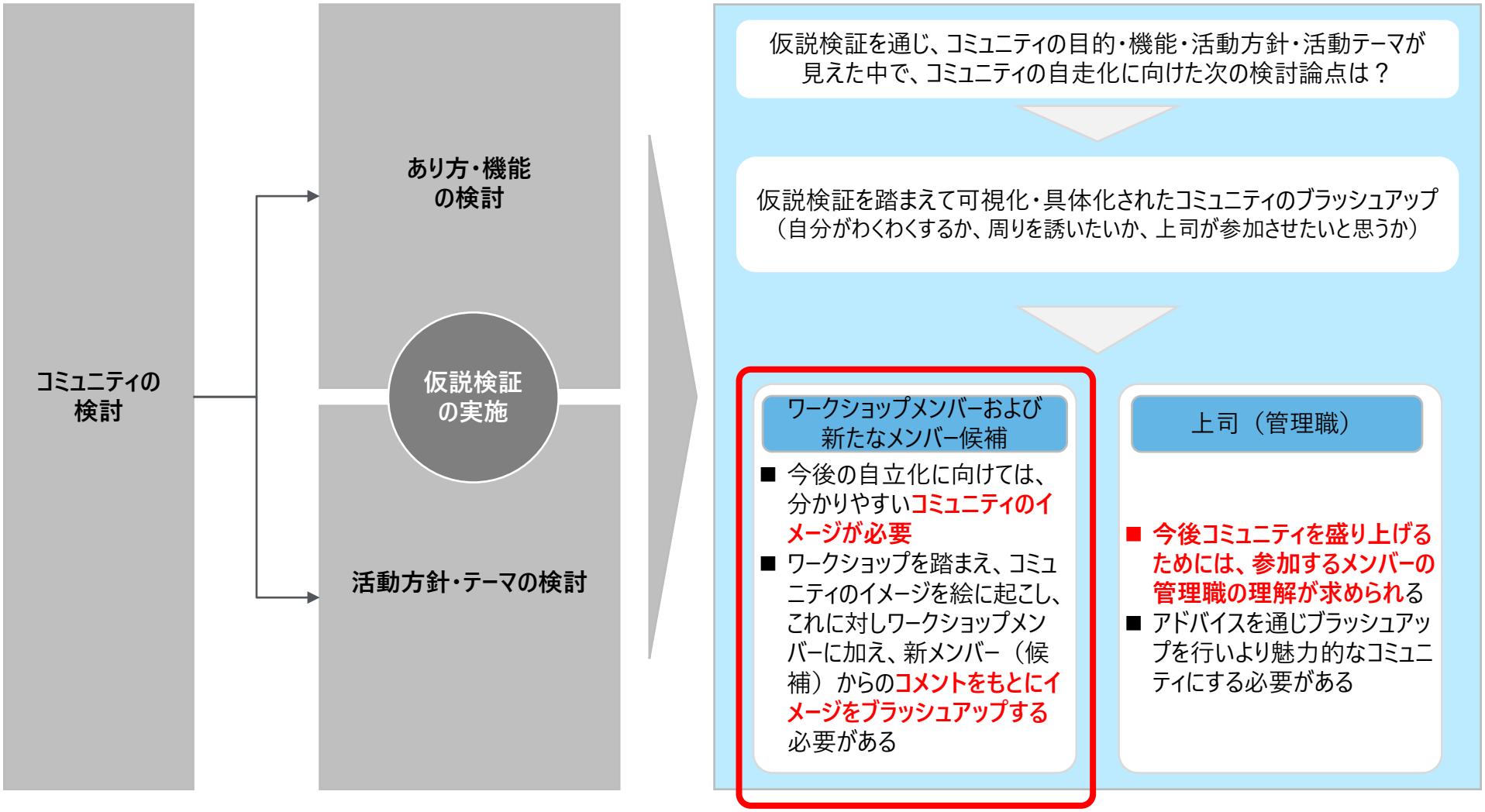
STEP3　本事業を通じ今後検討すべき論点

自走化に向けた準備としては、仮説検証を踏まえて可視化・具体化されたコミュニティのブラッシュアップであり、メンバーや管理職の方の意見を参考にしながら進めていきます

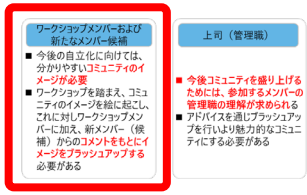
自走化に向けた準備



自走化に向けた準備


コミュニティの検討
あり方・機能の検討
仮説検証の実施
活動方針・テーマの検討
仮説検証を通じ、コミュニティの目的・機能・活動方針・活動テーマが見えた中で、コミュニティの自走化に向けた次の検討論点は？
仮説検証を踏まえて可視化・具体化されたコミュニティのブラッシュアップ（自分がわくわくするか、周りを誘いたいか、上司が参加させたいと思うか）
ワークショップメンバーおよび新たなメンバー候補
■ 今後の自立化に向けては、分かりやすいコミュニティのイメージが必要
■ ワークショップを踏まえ、コミュニティのイメージを絵に起こし、これに対しワークショップメンバーに加え、新メンバー（候補）からのコメントをもとにイメージをブラッシュアップする必要がある
上司（管理職）
■ 今後コミュニティを盛り上げるためには、参加するメンバーの管理職の理解が求められる
■ アドバイスを通じブラッシュアップを行いより魅力的なコミュニティにする必要がある

この絵を見て自分がわくわくするか、周りを誘いたいか、上司が参加させたいと思うかの観点で、確認頂きました



コミュニティのイメージ

次々世代の大学経営者よ！
共に学び、共に挑戦しよう！！

本コミュニティは、日本の大学の科学技術力の向上を目的に
地域中核大学等の次々世代を担う実務者による参画型コミュニティです

発信

匿名性を担保

内容によっては

現場課題やニーズを関係先に発信する場

✓コミュニティでの議論が実務の課題解決につながったり、
今後の更なる科学技術発展につながるよう、
テーマ事に適切な発信を行う
（大学の経営層、文科省、産業界等）

産学官連携
実務者コミュニティ

情報共有

実務に関する課題解決・スキル向上・情報交換の場

✓各テーマについて議論や情報共有を行う

文科省からの情報共有の場

✓コミュニティメンバーに対し、国からも動向や政策等の
情報を発信し、理解促進・機運を高める

コミュニティメンバー

地域中核大学等の
次々世代の大学経営を担う
若手産学官連携実務者

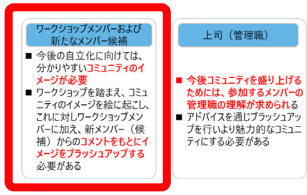
主体

URA・事務職員等

文部科学省

上図は当時のブラッシュアップ前のものであり、最終のものでないことに留意

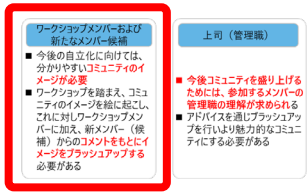
おおむね、イメージに対するコメントは好印象でした。特に国が関わっているという点は、自分自身だけでなく上司にとってもよい印象の様子です



コメントのまとめ

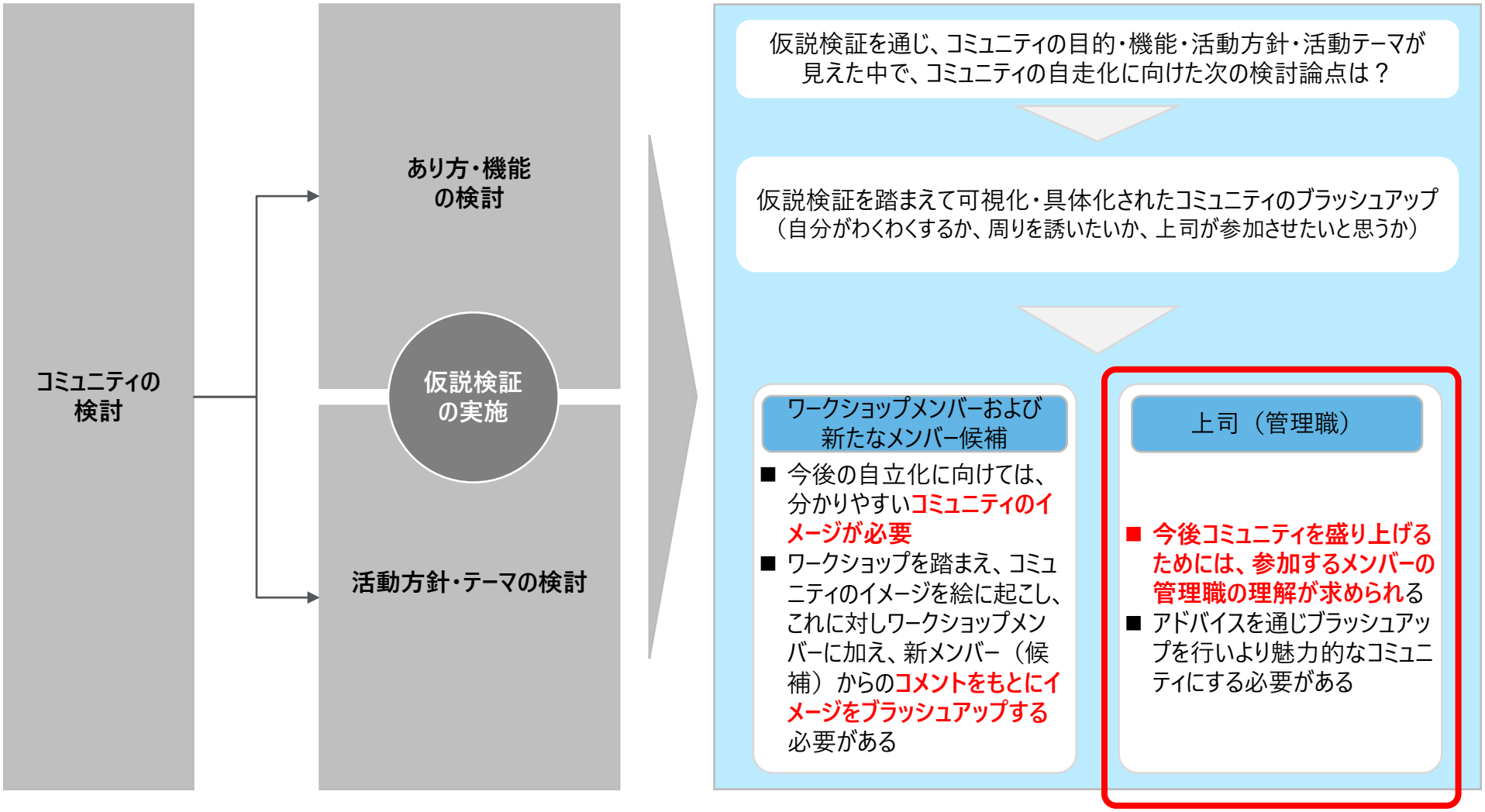
評価の観点	コメント内容
① 自らが参加したいと思えるか、わくわくするか	✓ 一度話は聞いてみたいと思う資料になっている ✓ 国の大きな施策決定のプロセスを覗けるとか、発信ができるといったようになると、ワクワク度は一段と上がりそう。省庁の若手・中堅の方が参加する構造になるだけでもワクワク感は上がりそう　等
② 周りにも声をかけたいと思うか、参加したいと思うか	✓ 周りに声をかけて、興味を持っていただける方は少なからずいると思う　等
③ 上司が参加させてもいいと思うか	✓【参加者に「各省庁の職員」を加える】は上司に対しても効果がありそう ✓ 事務職員が参加するには「コミュニティが組織のためになるのか」が重要視されると思い、その点でみると文科省が関わっているという点は訴求点になる　等
その他	✓ ミュニティの意義である「将来のあるべき大学の実現」「実務の高度化」の前提となる課題も資料に加えてほしい 　✓ 課題が背景にあり、だから「若手から将来のあるべき大学の姿を発信する」ことを目的に、「実務の高度化や課題解決に関して多職種が議論し情報共有する場」というイメージ　等

コメントを踏まえブラッシュアップしたコミュニティのイメージです

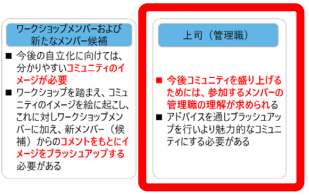


現時点でのコミュニティのイメージ

自走化に向けた準備


コミュニティの検討
あり方・機能の検討
仮説検証の実施
活動方針・テーマの検討
仮説検証を通じ、コミュニティの目的・機能・活動方針・活動テーマが見えた中で、コミュニティの自走化に向けた次の検討論点は？
仮説検証を踏まえて可視化・具体化されたコミュニティのブラッシュアップ（自分がわくわくするか、周りを誘いたいか、上司が参加させたいと思うか）
ワークショップメンバーおよび新たなメンバー候補
■ 今後の自立化に向けては、分かりやすいコミュニティのイメージが必要
■ ワークショップを踏まえ、コミュニティのイメージを絵に起こし、これに対しワークショップメンバーに加え、新メンバー（候補）からのコメントをもとにイメージをブラッシュアップする必要がある
上司（管理職）
■ 今後コミュニティを盛り上げるためには、参加するメンバーの管理職の理解が求められる
■ アドバイスを通じブラッシュアップを行いより魅力的なコミュニティにする必要がある

ワークショップに参加した大学関係者の上司の方々に対し、クローズなイベント形式でヒアリングを行いました



目的・進め方

目的

- 管理職の方々の更なる理解の促進
- コミュニティ拡大に向けた示唆

概要説明

■ この事業の背景・目的およびコミュニティの概要を説明し、理解を頂く

意見交換

■ どのようなコミュニティであれば、管理職者は部下をコミュニティにいかせたいと判断するかについて意見交換

クロージング

■ 意見交換の振り返り

管理職の参加属性

ワークショップに参加した大学関係者の
上司の方を対象に実施した

No	氏名	役職
1	地方国立大学	研究企画課　課長
2	地方私立大学	研究部　課長
3	都市部国立大学	副学長
4	地方国立大学	研究・産学官連携課　准教授
5	地方国立大学	研究推進部　課長補佐
6	都市部私立大学	研究IR戦略部門 部門長

目次

No	項目	ページ番号
1	はじめに（本事業の概要・実施方法）	5
2	コミュニティの必要性の整理	9
3	類似コミュニティに見る目的・機能整理	１４
4	仮説策定	２２
5	仮説検証	４１
6	自走化にむけた準備	５８
7	本事業を通じ今後検討すべき論点	６７

本章では、仮説をもとに活動方針・テーマの検討の検証について取りまとめております

調査のアプローチと検討の観点

STEP1 現状認識　・仮説策定

現状認識

■ **コミュニティの必要性の整理**
産学官連携現場の情報共有・課題共有の現状の課題を整理する
（デスク調査及び大学関係者へのヒアリング）

■ **類似コミュニティに見る目的・機能整理**
国内外類似コミュニティから示唆を得る
（デスク調査及び大学関係者へのヒアリング）

仮説策定

■ **本事業で行う事業の仮説策定**
現場課題や既存コミュニティの差別化を踏まえ、本事業で扱うべきコミュニティの方向性を検討

コミュニティのあり方・機能　／　活動方針・テーマ

STEP2 仮説検証

論点	ワークショップ1回目	ワークショップ2回目	自走化にむけた準備
あり方・機能の検討	コミュニティの意義の腹落ち ■ メンバーが抱える課題共有をもとに、多職種連携の意義とコミュニティを新たに創る必要性を検討	コミュニティの在り方に関する合意形成 ■ メンバーの腹落ち感を前提に、既存コミュニティとの差別化を切り口に検討	新メンバーを通じたあり方のブラッシュアップ ■ メンバーからの意見と、新メンバーからの意見を通じたあり方のブラッシュアップ（自分がわくわくするか、周りを誘いたいか、上司が参加させたいと思うかの観点でコメント）
活動方針・テーマの検討	テーマの方向性の検討 ■ 制度、スキル、キャリア、研究シーズの観点で仮説テーマを設定し、メンバーの課題をもとに議論	テーマの方向性の深掘 ■ WS①で合意されたテーマ案（URAの意義・多職種連携すべき業務）について各メンバーの意見を募った	テーマの方向性の深掘 ■ 管理職の理解に向け、管理職へのヒアリングを行った

STEP3

本事業を通じ今後検討すべき論点

今後の検討論点を整理しています

今後の検討論点

今後の検討論点		初期仮説	ワークショップの結果
コミュニティのあり方・機能	コミュニティの対象・目的	■ 産学官連携の若手実務者（URAに限らず、事務職員等、多様な職種の方々が参画） ■ 日常業務の課題解決	■ 将来の大学経営を担う、若手・中堅の実務者（URAに限らず、事務職員等、多様な職種の方々が参画） ■ 日常業務の課題解決
	コミュニティの機能	■ 議論やコミュニケーションを通じた課題解決 ノウハウや事例の蓄積	■ コミュニティでの議論を踏まえた適切な先への発信機能 ■ 情報発信機能（事務職員が参加しやすいように具体的な業務に関する情報及び文科省からの情報発信）
活動方針・テーマ	コミュニティの段階的醸成方法	■ 立上げ・助走段階としてコミュニティのコアメンバー候補と、小規模で活動し、次年度以降徐々に仲間を増やし拡大をさせる	■ 新たに加わるメンバーへの心理的安全性の観点から、個別に声をかけて着実に増やしていくことが望ましい
	具体的な検討テーマ	■ 研究インテグリティ ■ 研究データマネジメント ■ 博士人材のキャリア ■ 産学官連携実務者のキャリアデザイン	■ 事務職員は、日常業務に直結し、かつURAとも協議する意義がある内容に関するテーマ、URAは、現状の課題に対し今後目指す姿に関する検討がテーマが期待できる

今後の検討論点

■ 一定今回の取り組みで合意形成が図れたので、それをもとに検討

1. ■ **コミュニティの活性化に向けたメンバーの拡充**
2. ■ **コミュニティの具体的な活動テーマ**

＋

3. ■ **コミュニティを運営するための規約や会議体の設定等の整備が必要**

次年度以降は、活動テーマが明確になり、コミュニティの規模が徐々に拡大されていくことから、更なる拡大に向けては大規模セミナー等での巻き込みが有効と考えます

1 ■ コミュニティの活性化に向けたメンバーの拡充

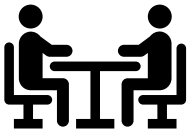
コミュニティの活性化に向けたメンバーの拡充

大規模多数
一度に多数を巻き込み

オンライン形式での
セミナー等

今後は、活動テーマが明確になり、コミュニティの規模が徐々に拡大されていくことから、更なる拡大に向けては大規模型でのアプローチを検討されたい

小規模少数
小規模での巻き込み



個別説明会等

← **本年度** →　← **次年度以降** →

多職種で議論ができるもので日常業務に関する内容でスキル向上につながるテーマ、事務職員やURA等研究者支援に関わる大学関係者のキャリア形成に関するテーマが検討テーマの方向性です

2
■ コミュニティの具体的な活動テーマ

コミュニティの具体的な活動テーマ（案）

ワークショップでのまとめ

■ 多職種で相互理解を深めることができるテーマやURAの現状の課題に対し今後目指す姿に関する検討がテーマが期待できる

管理職セミナーのまとめ

■ スキル向上やキャリアに関するテーマへの要望意見が多く、コミュニティで検討しているテーマ感と大きな齟齬はない

多職種で議論ができるテーマで、日常業務に関する内容でスキル向上につながるもの

- 案 **研究インテグリティ**（自大学の研究インテグリティの確保に向けた現状評価と課題整理）
- 案 **研究データマネジメント**（自大学の研究データマネジメント推進に向けた現状の評価と課題整理）
- 案 **大学発スタートアップ立上げ支援**（知財・兼業申請・経営人材の獲得、ビジネスモデル助言等）
- 案 **大学発スタートアップ創出支援**（補助金獲得支援に関する業務）

・
・
・

事務職員やURA等研究者支援に関わる大学関係者のキャリア形成に関するテーマ

- 案 研究者支援関係者の更なる活性化に向けたスキル整理とマインドセット
- 案 職種別の研究者支援関係者のキャリアの歩み方の検討
- 案 複数大学での経験を通じキャリア形成を行う研究者支援関係者のクロスアポイントメント制度案の検討

・
・
・

今後の検討論点

		初期仮説	ワークショップの結果	今後の検討論点
コミュニティのあり方・機能	コミュニティの対象・目的	■ 産学官連携の若手実務者（URAに限らず、事務職員等、多様な職種の方々が参画） ■ 日常業務の課題解決	■ 将来の大学経営を担う、若手・中堅の実務者（URAに限らず、事務職員等、多様な職種の方々が参画） ■ 日常業務の課題解決	■ 一定今回の取り組みで合意形成が図れたので、それをもとに検討
	コミュニティの機能	■ 議論やコミュニケーションを通じた課題解決 ノウハウや事例の蓄積	■ コミュニティでの議論を踏まえた適切な先への発信機能 ■ 情報発信機能（事務職員が参加しやすいように具体的な業務に関する情報及び文科省からの情報発信）	
活動方針・テーマ	コミュニティの段階的醸成方法	■ 立上げ・助走段階としてコミュニティのコアメンバー候補と、小規模で活動し、次年度以降徐々に仲間を増やし拡大をさせる	■ 新たに加わるメンバーへの心理的安全性の観点から、個別に声をかけて着実に増やしていくことが望ましい	1 ■ **コミュニティの活性化に向けたメンバーの拡充**
	具体的な検討テーマ	■ 研究インテグリティ ■ 研究データマネジメント ■ 博士人材のキャリア ■ 産学官連携実務者のキャリアデザイン	■ 事務職員は、日常業務に直結し、かつURAとも協議する意義がある内容に関するテーマ、URAは、現状の課題に対し今後目指す姿に関する検討がテーマが期待できる	2 ■ **コミュニティの具体的な活動テーマの設定**

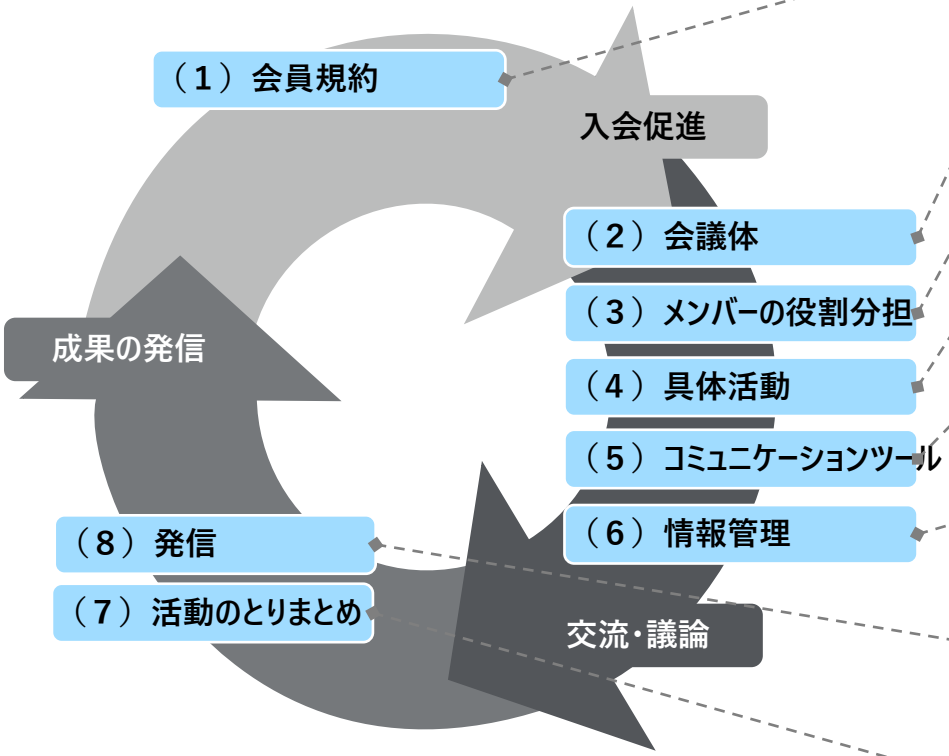
＋

3 ■ **コミュニティを運営するための規約や会議体の設定等の活動を推進する環境整備**

活動を推進する環境整備の検討事項としては、会員規約、会議体、役割分担、具体活動、コミュニケーションツール等の論点があります

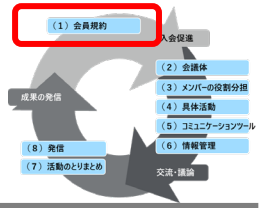
3
■ コミュニティを運営するための規約や会議体の設定等の活動を推進する環境整備

活動を推進する環境整備の検討論点



- ✓ コミュニティの規律、参加目的の目線合わせ、今後の運営トラブル回避の観点で**ルールの設計が必要**
- ✓ コミュニティ活動の状況把握、滞りない活動の観点から、**仕組みとしての交流・活動機会の設定が必要**
- ✓ コミュニティの活性化にあたり、**コミュニティにいるメンバーの明確な役割を設定が必要**
- ✓ 会議体・役割分担を踏まえ、具**体的な活動の設定**が必要
- ✓ コミュニティ参加者が**日常的にコミュニケーションが取れるツールの整備**が必要
- ✓ コミュニティ活動を通じ、様々な情報が飛び交う中で、これらの**管理に対する考え方の設定が必要**
- ✓ コミュニティ活動の成果を対外的に発信するにあたり、その**対象の検討が必要**
- ✓ コミュニティの活動を成果として発信するための**適切な情報のとりまとめが必要**

類似コミュニティ事例における規約を踏まえ、当コミュニティにおける規約に記載する項目の候補を検討しました。本コミュニティでは特に機密情報の扱いについての記載が求められます



規約に記載する項目候補の検討

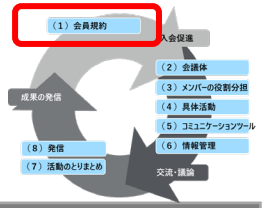
（1）会員規約

分類	項目名称例	記載内容	規約作成に向けて整理すべき内容
活動内容	名称・目的・活動内容	コミュニティの名称および目的、目的達成に向けて実施する内容	コミュニティ活動の目的、具体的な実施内容
参加者の役割	会員・事務局等	各参加者の役割に関する考え方	各自明確な役割を持ち活動することの必要性
会議体	全体会議・テーマ別ワーキング	コミュニティにおける意思決定機関としての会議体や、活動推進に係るWG設置の考え方	各種会議体開催期間など意思決定機関の活動や、WG設置の方針
入会・退会	入会・退会・会員資格喪失	参加者の入会・退会プロセス	参加者の入会・退会プロセスおよび会員資格獲得・剥奪に係る考え方
知財・情報管理	知的財産権の取り扱い・守秘義務	コミュニティ活動で発生した知財の考え方や、コミュニティ内で取得した情報の取り扱い	知的財産に関する考え方、情報管理に関する考え方 文科省内での検討が必要
禁止・免責事項	禁止事項・免責事項	コミュニティ活動における禁止事項や免責事項	コミュニティ活動における禁止事項、免責事項に関する考え方
その他	終了・解散	コミュニティ終了・解散プロセス	コミュニティ活動終了・解散
	規約の改定・附則	その他規約の改定などの考え方	規約改定のタイミングに関する考え方

ご参考）類似事例における規約記載項目

分類	項目	記載内容	東京コンソ	大阪イノベーションハブ	NAKAMOZUイノベーションコア創出コンソーシアム	広島サンドボックス	東北地域イノベーション推進コンソーシアム	京都大学デザインイノベーションコンソーシアム	モビリティ変革コンソーシアム	札幌市IoTイノベションコンソーシアム	秋田デジタルイノベーション推進コンソーシアム	環境エネルギーイノベーションコミュニティ
前提	総則	全体に適用する包括的な規定		○								○
事業内容	名称	コミュニティの名称	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	目的	コミュニティの目的	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	事業	目的に向けて実施する事業内容	○		○	○	○	○	○	○	○	○
	会員サービス	会員に向けて提供するサービス		○								
コミュニティ構成	事務局	事務局設置有無、場所	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	構成	コミュニティの構成について				○	○		○			
	会員	コミュニティの会員種別	○	○	○			○	○	○	○	○
	会員種別変更	会員種別変更の考え方						○				
	資格	何をもって会員資格を有したとするか		○								
	会員の義務	会員のコミュニティにおける義務		○								
	役員・理事会	コミュニティにおける役員・理事会の構成	○		○	○	○	○	○	○	○	
	役員の選任	役員の選任方法			○	○	○		○			
	役員の任期	役員の任期について			○	○	○		○	○	○	
	顧問	コミュニティの顧問			○							
	支援・協力機関	支援・協力機関との関わり方			○							
	職務	会員以外の職務			○							
会議体	総会・会議	意思決定機関としての総会・理事会などの開催について	○		○	○	○	○	○	○	○	
	関係者の出席	総会への関係者の出席について			○							
	書面評決等	総会欠席時の書面評決に関する考え方			○							
	専門部会・WG	専門部会設置の考え方	○			○			○	○	○	
入会・退会	入会	入会プロセス	○	○	○	○	○		○	○	○	○
	退会	退会ポリシー	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	会員の資格喪失	資格喪失にあたる事項	○	○				○				
会費・経費	参加費用・会費	コミュニティ参加に係る費用		○	○	○		○	○	○		○
	経費	コミュニティ運営に必要な経費のコスト負担について			○							
知財・情報管理	知的財産の取り扱い	コミュニティ活動で生まれた知財の取り扱いについて			○							
	守秘義務	コミュニティ活動で得た情報の守秘義務について	○		○				○			
禁止・免責事項	禁止事項	コミュニティにおける禁止事項		○								○
	免責事項	コミュニティ内での商談等にかかる免責事項		○								
活動終了関連	終了・解散	コミュニティ終了の考え方		○	○		○					
	残余財産	終了・解散時の残余財産の帰属について			○							
	通知	何を以て通知したとするか		○								
事業年度	事業年度	事業年度の定義		○	○		○		○			○
その他	規約の改定	改訂ポリシー	○	○			○		○			
	管轄裁判所	トラブルを管轄する裁判所		○								
	附則・補足	いつから施行か等	○	○	○	○						

規約項目ごとの記載案

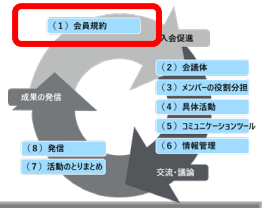


記載案

（1）会員規約

項目		記載案
事業内容	名称	■ 本コミュニティの名称は、XXXXXX（以下、コミュニティ）と称する
	目的	■ 本コミュニティは、大学事務職員、大学研究支援実務者（URA,事務）のコミュニティとしての地位を確立させることで、大学及び研究機関の強化、スタートアップの創出や成長、ひいては国内の持続的な発展を実現することを目的とする
	活動内容	■ 本コミュニティは、前条の目的を達成するため、次に掲げる取組を行う （1）実務者のスキルアップ、キャリア形成促進 （2）コミュニティ活動内容の対外的な発信 （3）コミュニティ参加者からの各種情報の発信 （4）実務者間の交流及び連携 （5）〇〇〇〇
参加者の役割	会員	（1） 正会員（メンバー） 本コミュニティの目的及び活動内容に賛同して入会し、本コミュニティの主要な取組に関わる大学関係者 （2）賛助会員（サポーター） 本コミュニティの目的及び活動内容に賛同して入会し、必要に応じて本コミュニティの取組に協力する意思のある企業、自治体、学術研究機関、大学管理職者等
	事務局	■ コミュニティ活動における事務を処理するため、事務局を置く
会議体	全体会議・テーマ別ワーキング	■ コミュニティの目的を推進するために、コミュニティにおける意思決定機関・進捗確認としての全体会議、個別テーマに応じたワーキンググループ（WG）を設置する

規約項目ごとの記載案



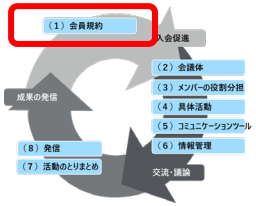
記載案

（1）会員規約

項目		記載案
入会・退会	入会	■ 本コミュニティへの入会を希望する者は、別に定める入会届を事務局に提出し、事務局の承認を以てコミュニティに入会することができる
	退会	■ 会員は、別に定める退会届を事務局に提出し、任意に退会することができる。 ■ 会員が次のいずれかに該当するに至ったときは、事務局によって当該会員を除名することができる。 （１）本コミュニティの目的にふさわしくない行為を行ったとき。 （２）本コミュニティの活動を妨げるような行為を行ったとき。 （３）その他除名すべき正当な理由があるとき。
免責事項	免責事項	■ 本コミュニティへの参加に伴う会員同士の商談・取引・契約等について、事務局は何ら保証等するものではなく、これら及びこれらに基づいて生じたいかなるトラブル・損害についても、本コミュニティは一切の責任を負わない
その他	規約改正	■ この規約は、会員の意見を募ったうえで、事務局によって変更することができる

※知財・情報管理は文科省にて検討

コミュニティ会員は、正会員と賛助会員（学内の方と学外の方）の2つに分けて考えています



会員の考え方

（1）会員規約

コミュニティ会員

正会員

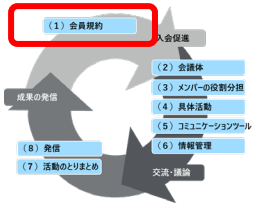
本コミュニティの目的及び活動内容に賛同して入会し、本コミュニティの主要な取組に関わる大学関係者

賛助会員

学内　**学外**

本コミュニティの目的及び活動内容に賛同して入会し、必要に応じて本コミュニティの取組に協力する意思のある企業、自治体、学術研究機関、大学管理職者等　（次頁イメージ）

メンバーの巻き込みのうち、賛助会員は、正会員の課題解決に寄与できる自治体や民間企業、士業者等を想定しています



（1）会員規約

本コミュニティに巻き込みが想定される外部ステークホルダー（賛助会員のイメージ）

賛助会員のイメージ

弁理士

- ✓ 事業化を見据えて戦略的に特許権を取得したいが、具体がわからない
- ✓ 共同研究先との発明を特許出願を検討しているが、単独か共同か迷っている

産業界・自治体

- ✓ 大学の研究成果を社会に還元したい、研究に対する社会のニーズを知りたい
- ✓ 自大学だけでは難しい研究を行うため、パートナーを見つけたい

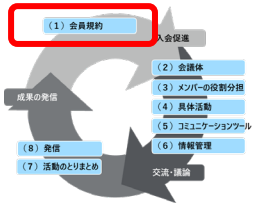
弁護士

- ✓ 連携先は見つかったが、契約の内容が妥当なのかわからない
- ✓ 契約書ひな形の使い方がわからない

大学の管理職層

- ✓ 大学経営の視点からの助言やコメントが欲しい

事務プロセスの整理（新規会員入会時）



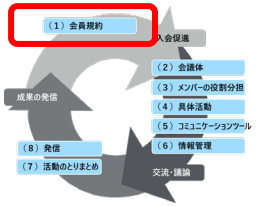
コミュニティへの新規入会時の対応プロセス

（1）会員規約

立場　　対応プロセスと内容

立場	対応プロセスと内容
文科省	• 状況を把握 • 入会届を受領
事務局	• 入会希望の旨を文科省に報告 • 入会届及び案内資料を入会希望者に送付 • 入会届の不備確認 • 不備がない場合、文科省に入会届を連携。不備がある場合、入会希望者に修正を依頼 • Slack等にて自己紹介するよう入会希望者に依頼
入会希望者	• 事務局宛に入会希望の旨メール・Forms等で連絡 • 入会届を事務局に提出 • Slack等にて概要資料を添付し自己紹介

事務プロセスの整理（会員情報のメンテナンス）

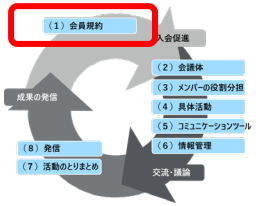


コミュニティメンバーの情報メンテナンスの対応

（1）会員規約

立場	常時対応	必要な場合対応
文科省		• 変更届を受領
事務局	• 会員情報変更時は事務局にメールで様式を提出する旨、数か月に回程度等定期的に周知	• 入会届の不備確認 • 不備がない場合、文科省に変更届を連携。不備がある場合、入会希望者に修正を依頼
会員	• 変更届の様式に必要事項を記入の上、事務局宛にメールで提出	

事務プロセスの整理（WG設立希望時）



会員が新たにワーキンググループ（WG）の設立を希望する際の対応

（1）会員規約

立場　　対応プロセスと内容

文科省

- WG把握

事務局

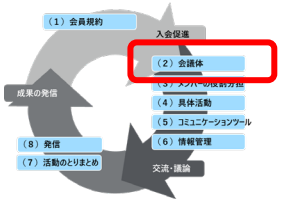
- WG設立希望時は事務局にメールで相談する旨周知
- コミュニティの目的に資するか確認
- 全体会議にて確認し、問題なければ承認※（文科省報告）
- 不備がある場合は、再検討を依頼
- WG設置の旨をSlackにて告知
- 必要に応じて、会員にSlack上での補足説明を依頼
- 事務局・会員にて、その後の実施方針について打ち合わせを実施

会員

- 事務局宛にメール等で提出
- 必要に応じて、Slack上での補足説明を投稿

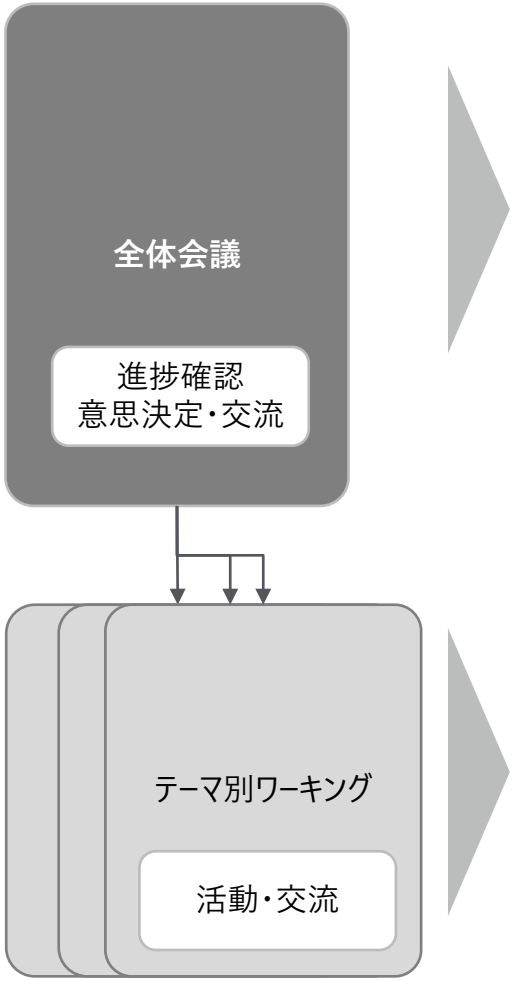
※必要に応じ、文科省、事務局、会員の3者で打ち合わせを実施

役割設定も踏まえ、コミュニティ活動の状況把握、滞りない活動が展開されるよう会議体の設計が必要です



会議体（案）

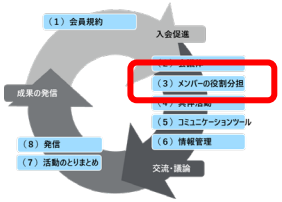
（２）会議体



会議機能	コミュニティ活動全体の進捗の把握、コミュニティ活動全体にかかる意思決定・承認、交流
開催頻度	2か月に1度の頻度（形式：オンライン）、これに加え四半期に1度の頻度（オフライン）
会議内容	コミュニティ活動全体の進捗、今後の進め方の確認 （初回に年間の全体設計を行い、次回以降はその進捗の確認）
参加者	必須：テーマ別ワーキングの推進リーダー（モジュールリーダー） 任意：テーマ別ワーキングの参加メンバー（イノベーター） ※次年度初回はコミュニティ全員の交流を加味し、全員の参加も検討されたい
推進体制	各モジュールリーダーが中心となり、持ち回り持ち回りで幹事を担い実施する 事務局・コミュニティリーダーは開催に向けてロジ回り中心にサポートを行う

会議機能	プロジェクトの推進（設定したテーマに基づく課題解決プロジェクトの推進）
開催頻度	2週間に1度の頻度（形式：オンライン）
会議内容	設定テーマに基づき、ワーキング参加者による情報共有、各自TASKの確認・報告等、 設定したテーマのゴール（課題解決）に向けた具体的な活動とする
参加者	設定テーマに関心のある会員
推進体制	テーマ別内ワーキング毎に設けられるモジュールリーダーのもと推進 （初回のワーキングにてモジュールリーダーを決定する）

コミュニティマネージャー、モジュールリーダー等、コミュニティ内での明確な役割設定が必要です



コミュニティ内での役割設定

（3）メンバーの役割分担

モジュールリーダー

会員メンバーが担当

設定した課題テーマについての活動を中心となって進めていくリーダー

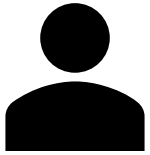
コミュニティマネージャー

イベント企画・開催や情報発信、コミュニティメンバー間のマッチング支援、コミュニティ内のトラブル解決等、コミュニティ活性化におけるこれらのマネジメントを行う

交流・学び推進リーダー

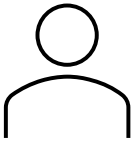
会員メンバーが担当

コミュニティメンバー間の交流会や勉強会の企画、情報発信等を持続的定期的に、他メンバー以上に意識し実行する



事務局

コミュニティの入会対応、連絡事項等の事務対応を担当



イノベーター

コミュニティの所属する正会員が該当
本コミュニティは、参加者はコミュニティの視聴者でなく、主体的意識をもった活動を求めていることから、革新者（イノベーター）としての活動を求める

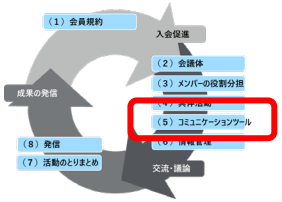
学びの場、交流の場、質問の場、発表の場をそれぞれ設定しつつ、これと連動する形でテーマ別ワーキングを推進することが考えられます

具体活動（案）

（４）具体活動

	初期な活動	中期的な活動
コミュニティメンバーが主体となって活動	**学びの場** テーマ（課題が紐づく）の解決ヒントを保有している方の講演とディスカッションの場 （月１回が理想／12時～13時のランチタイム）	**質問の場** 最初は会員間の「質問＆回答」は実施しない 学びと交流の場が盛んになってくれば、自然発生的に「質問＆回答」の理想形が会員企業から生まれてくる想定
	交流の場 3か月に1度ぐらい文科省に来ていただき、ランチ会を実施 ：学びの場で講演していただいた方のサマリーの発表 ：名刺交換会 ：文科省とカジュアルにディスカッションをする場	**発表の場** 活動を通じ、適切な先に発信をする
	コミュニティメンバーで決めたテーマに対するコミュニティ活動 （P86のテーマ別ワーキングの活動）	
文科省事業として実施	年間１回：　協議会として文科省を含めた発表の場 or 年間１回：　URA協議会と連動をした場	

リアルタイムでメンバーが議論するシーン以外でのコミュニケーションツールについて検討をしていますが、代替案はコミュニケーションツールとして機能させることは難しい印象です



（５）コミュニケーションツール

コミュニケーションツールの検討

意思決定・ディスカッション → 意思決定・ディスカッション

リアルタイムで、メンバーが議論するツール

Zoom等の各種オンラインの会議システムにて対応

論点：ここのコミュニケーションのツールをどうするか

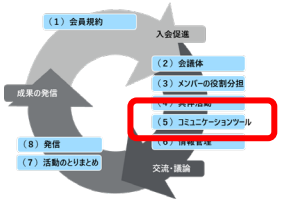
- 現状のツール（slack）は機能制限でコミュニケーションデータの一定期間後に消滅
- 機微な情報がツール上に投稿される可能性がある（今後会員規約で制限するが）ため、継続利用については、慎重な判断が求められており、Slack以外の手段の可能性検討が必要な状況である

代替案

	Lineグループ立上げ	メーリングリスト作成
利点	➢ 利用率が高く、また立上げ作業が用意で簡単に繋がれる ➢ 履歴が残る	➢ PC利用が想定され、Lineよりもデータ共有は容易 ➢ 履歴が残る
懸案点	➢ グループ全員への発信になるので、場合によってはディスカッションに向かない ➢ テーマ毎に分けて対応する必要があるが、設定が手間 ➢ スマホ利用が想定され、データ投稿が困難	➢ グループ全員への発信になるので、場合によってはディスカッションに向かない ➢ テーマ毎に分けて対応する必要があるが、設定が手間

- いずれも連絡網としては機能するが、機微な情報を除いたとしてもディスカッションを行うコミュニケーションツールとして機能させることは難しい
- Slackのコミュニケーションツールの利用ルールを厳しく制限して継続して対応すべきではないか

必要な情報はアーカイブとして残しつつSlackを継続利用。その後はコミュニティの盛り上がりを見ながら、他ツール含めて有料ツールの検討が必要と考えます



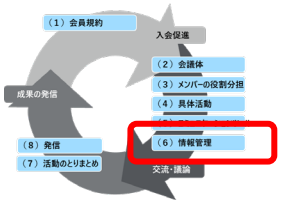
Slackおよびその他のオンラインコミュニケーションツール

（５）コミュニケーションツール

プロダクト・サービスの内容	Slack	LINE WORKS	Microsoft Teams	Chatwork
グループチャット	無制限	無制限	1チームに最大200チャネル（チーム最大250作成可）	無制限
料金プラン	無料（投稿保管期間90日間）	無料（100人まで）	有料（500円/月）	無料（100人まで）
音声・ビデオ通話	最大15人可	最大200人可	最大300人可	1対1
ファイルストレージ	ワークスペースで最大5GB（有償プランによって拡大可）	チャット全体で最大5GB（有償プランによって拡大可）	チーム全体で最大10GB（有償プランによって拡大可）	チャット全体で最大5GB（有償プランによって拡大可）
投稿閲覧・検索	10,000件まで（有償プランによって拡大可）	全てのメッセージ	全てのメッセージ	全てのメッセージ
管理者権限	ワークスペース、メンバー、チャネル管理	メンバー、チャネル管理	メンバー、チーム、チャネル管理	メンバー、チャネル管理
アーカイブ	チャネル、ファイル、チャットのアーカイブ	メール、チャットのアーカイブ	チャネル、ファイル、チャットのアーカイブ	×

利用の前提として、ツール内での機微な情報は一切投稿しないというルールのもと、利用することが求められる

個人情報のみならず、各種レジュメ、議事録、共有されたファイル等を管理対象とし、またそれが活用できるよう整理も必要です

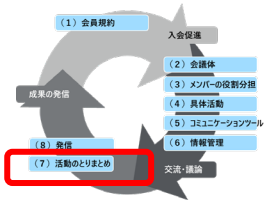


情報管理

（6）情報管理

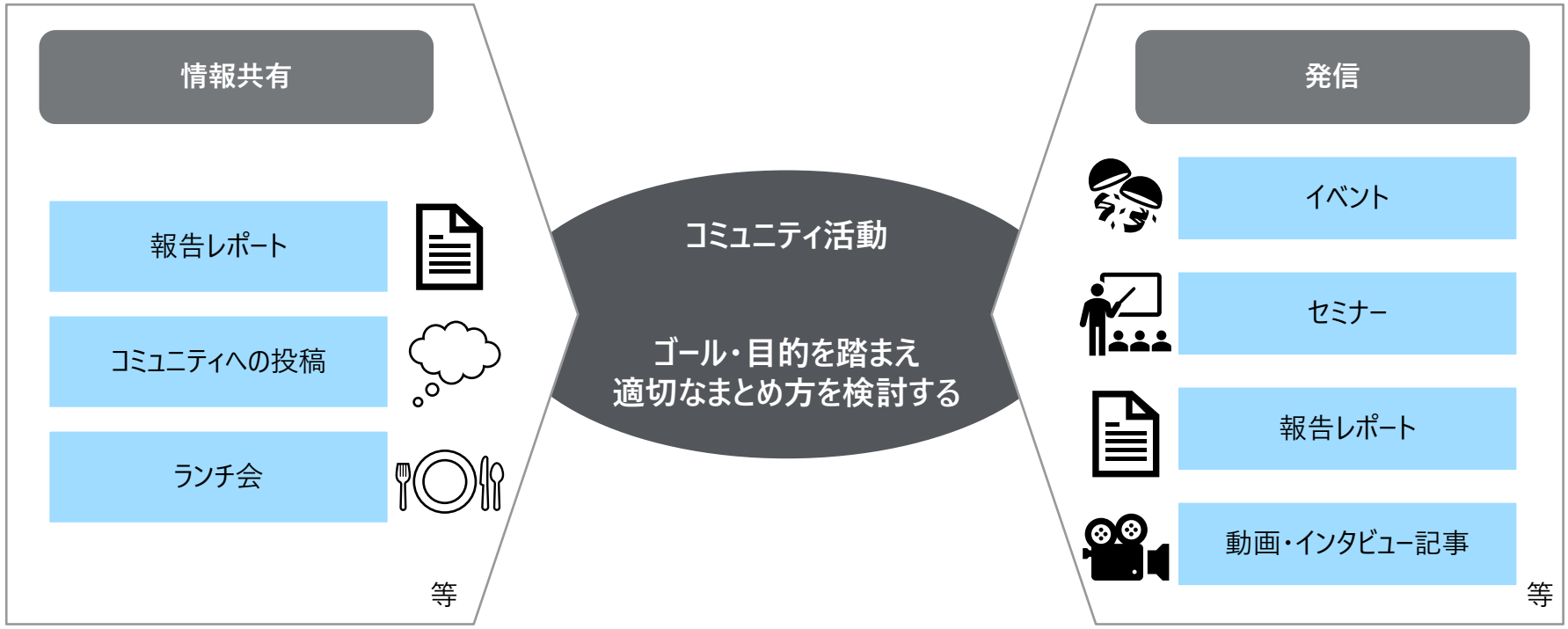
管理するデータの対象	個人情報	■ コミュニティ会員の申し込み情報（個人情報）
	レジュメ	■ コミュニティ活動で今後展開される勉強会やセミナー等の講義レジュメ
	議事録	■ 全体会議やテーマ別ワーキング、各セミナー等コミュニティ内で発生する活動の議事録（簡易なもの）
	共有ファイル	■ コミュニティ会員が投稿シェアする各種ファイル
データの管理方法		■ セキュリティ要件を満たす外部サーバーでの保存（レジュメ・議事録・共有ファイル） ➢ 保存の観点のみで見ると、文科省が保有しているサーバー保存があるが、コミュニティメンバーが自由に利活用できないため可能性があるため、検討が必要
データの活用		■ 事務局にて定期的に取りまとめたうえで、WEBサイトやセキュリティ要件を満たす外部サーバーでカテゴリ整理・タグ付けをして保存（検索機能があると尚良い） ■ （タグのイメージ：全体会議、セミナー、制度、キャリア、補助金等）

どのようなまとめ方が、コミュニティで設定した個別テーマのゴール・目的に合致するのかを踏まえ それに応じた適切なまとめが必要です



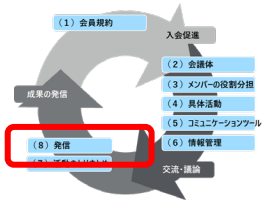
活動のとりまとめ

（7）活動のとりまとめ



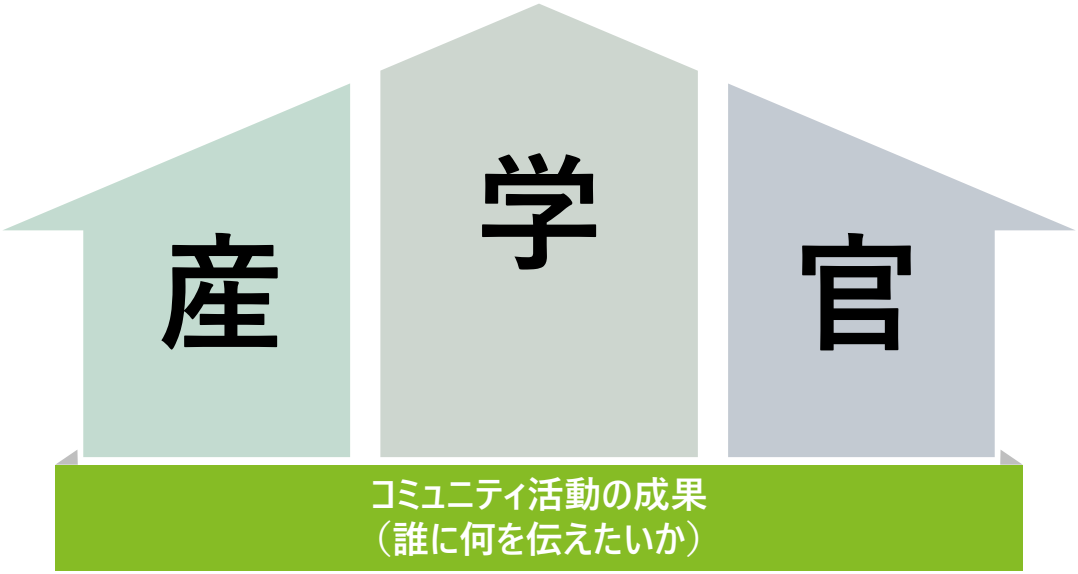
- 例えば、キャリアに関するテーマであれば、実際に活躍している方ロールモデルとして取材し、動画やインタビュー記事にまとめるのが望ましい
- また、例えば多職種で連携すべき業務に関するテーマで、現場での浸透ということであれば、イベントでの発信や、セミナーでのHowtoの発信、レポートとして発信する等、様々なとりまとめ方法が考えられます

コミュニティの成果を実利につなげるために、適切な先に発信することが重要であり、誰に何を伝えたいかを明確にする必要があります



発信

（8）発信

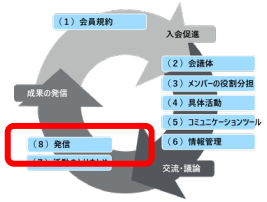


記載はイメージです

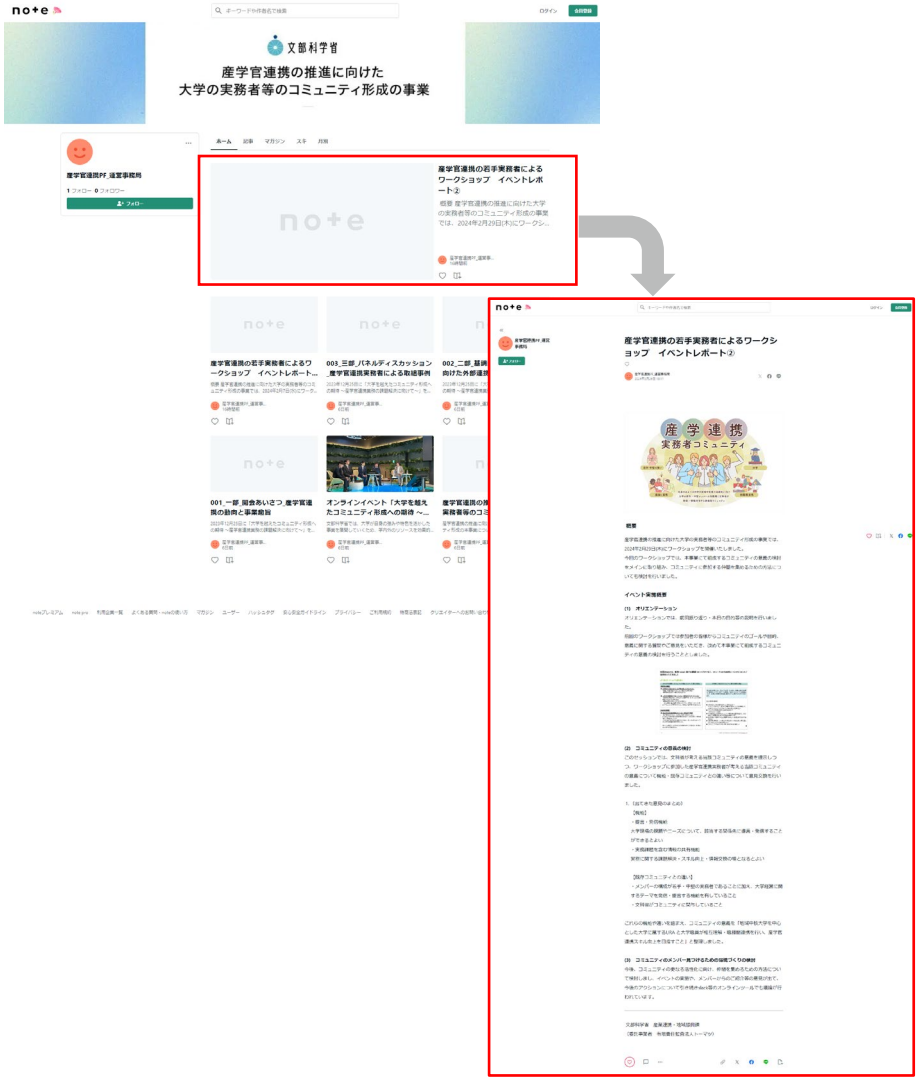
産業界全体に	経済団体に	大学の管理職or若手に	大学全体に	その他省庁等に	文科省に
産業界とアカデミアの更なる交流促進として具体的な連携テーマについて発信する	特に日本が注力している科学技術領域との親和性が高い業界に対する大学研究力や研究内の発信	大学経営を担う管理職の方への発信や、これからの大学の未来を作る若手職員に対するコミュニティへの参加を促す	官への発信だけで終わらず、大学自らが取り組まなければならないことをコミュニティメンバーの意見として発信・宣言する	将来の大学の研究力向上に向け、関係省庁として支援や連携を求めることを発信する	将来の大学の研究力向上に寄与する大学が取り組むべき方策について、現場の意見を伝える

大学の実務者が意見交換や取組の共有等を行うことのできるコミュニティを形成するため、noteを使った情報発信を行っています

noteでの発信目的、発信内容、実施上のポイント



（８）発信



■ **目的**

大学の実務者等が大学や地域を越えて、意見交換や取組の共有等を行うことのできるコミュニティを形成するため、noteを使ってオンライン上で情報発信を行う

■ **発信内容**

本事業の概要および本事業で運営したイベントやワークショップの開催レポートを発信しています。

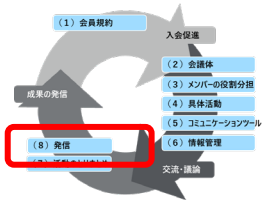
- 事業概要
- オンラインイベント「大学を越えたコミュニティ形成への期待 ～産学官連携業務の課題解決に向けて～」
- 産学官連携の若手実務者によるワークショップ

■ **実施上のポイント**

下記のポイントに留意しながら記事を作成・投稿しています。

- 1記事1-2分程度で読める分量に抑える
- 記事の中に写真や動画等のコンテンツを入れ込む
- 段落や階層分けすることで可読性を上げる
- 投稿時間を統一する（今後実施）
- サムネイルを設定する（今後実施）
- 必ず決まったタグを付ける（今後実施）

今後は認知度向上と閲覧数増加に向けて流入促進が必要です
加えて、noteの活性化に向けてコンテンツの充実化と運営面での工夫が必要です



noteの今後の運用方針

（8）発信

■ **流入促進**

現在、一般的な検索エンジンから関連ワード検索を行っても、本事業のnoteは上位表示されません
そこで、SEO対策を講じた一般的な検索エンジンからの流入増加が必要です
また、noteはプラットフォーム内で回遊性が高いことが知られており、関連記事からの流入も今後重要になると考えています

- SEO対策としてターゲットユーザの検索意図を想定した記事タイトルを付ける
- 関連記事からの流入を増やすために投稿記事に対して3-8個のタグ付けを行う
- 関連記事と比較したときに目に留まるようにサムネイルを必ず設定する
- 内部リンク機能によって過去の記事へユーザを誘導する
- 認知度向上のために他媒体（SNSなど）でアピールする

■ **活性化**

今後、noteを活性化してユーザの定着を目指すために、コンテンツの充実化と運営面での工夫が必要です

- 記事を月に1-2本のペースで投稿することで、来年度は投稿数を増加させる
- マガジン機能を使って関連記事を一括りにする
- noteは深夜帯に閲覧数が増える傾向にあるので夜間（20-22時を想定）に記事を投稿する
- アカウントの属性をアピールするために他アカウントを複数フォローする
- 情報発信用の連載コンテンツを検討してイベントなどがないときもコンスタントに記事を投稿する

文部科学省

本報告書は、文部科学省の令和５年度産学官連携支援事業委託事業による委託業務として、有限責任監査法人トーマツが実施した令和5年度「 産学官連携の推進に向けた大学の実務者等のコミュニティ形成の在り方に関する調査・分析」の成果を取りまとめたものです